

2009年11月11日



成長軌道への回帰と12Visionの実現に向けて

社長 松本 正義



2009年度上期 連結業績

FY2009 1st Half Result

前年対比では、需要減少に加え、円高・銅価下落もあり△35%の大幅な減収、
営業利益は△70億円の赤字。

公表対比では、自動車・エレクトロニクス関連の需要回復とコスト削減が進み、赤字幅が改善。

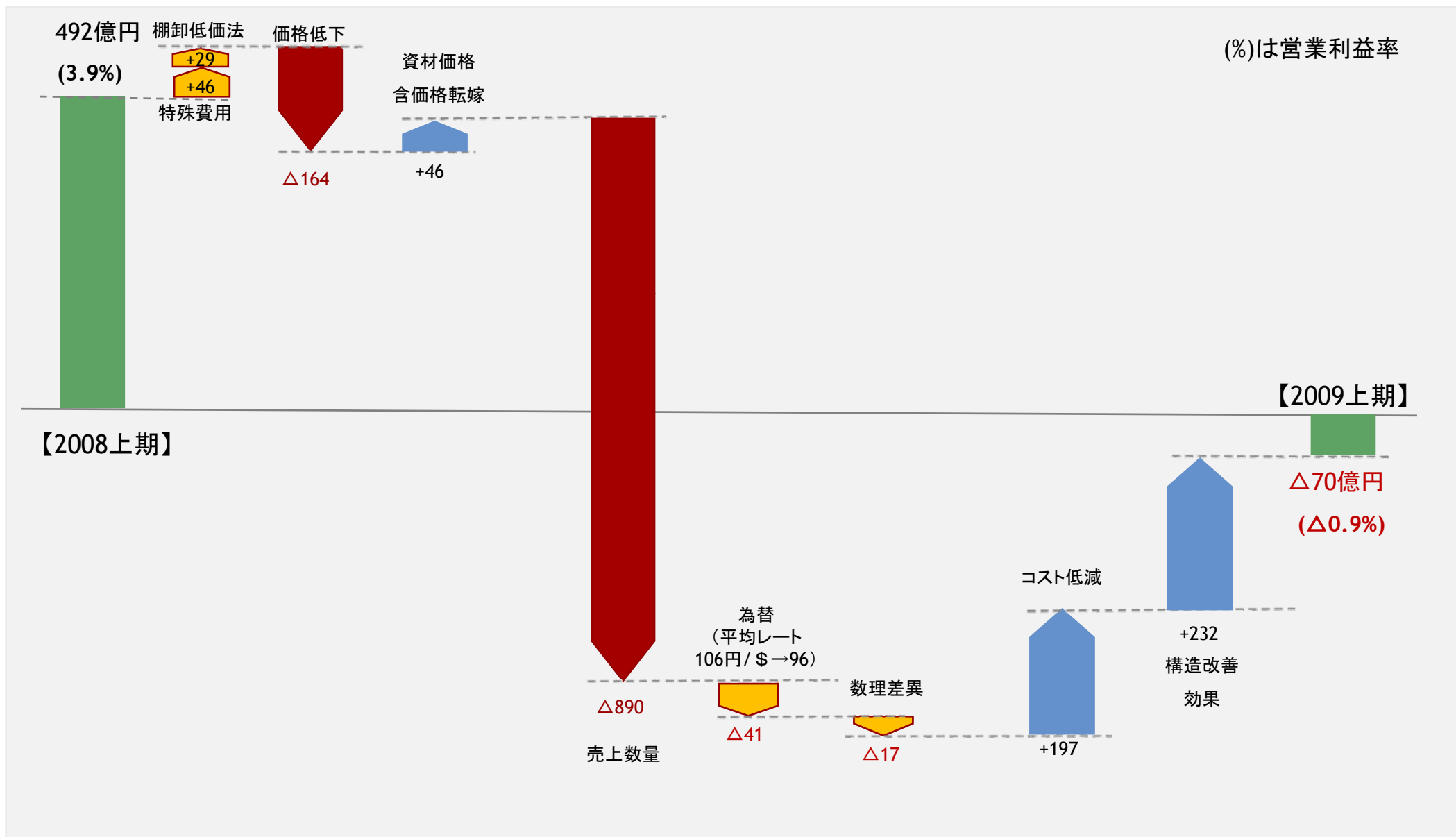
(単位：億円)	08年度上期 実績	09年度上期 年初公表	09年度上期 9/25 修正公表値	09年度上期 実績	前年比 増減率
売上高	12,478	7,900	8,100	8,123	▲35%
営業利益	492	▲300	▲100	▲70	--
営業外損益	158	▲30	--	31	--
経常利益	650	▲330	▲130	▲39	--
特別損益	▲35	0	--	▲58	--
税引前利益	615	▲330	--	▲97	--
当期純利益	397	▲220	▲140	▲97	--



営業利益の増減益要因 ～2008年度上期/2009年度上期

FY2009 1st Half Result

構造改善対策やコスト低減が進んだものの、需要減少が大きく、営業赤字に転落。

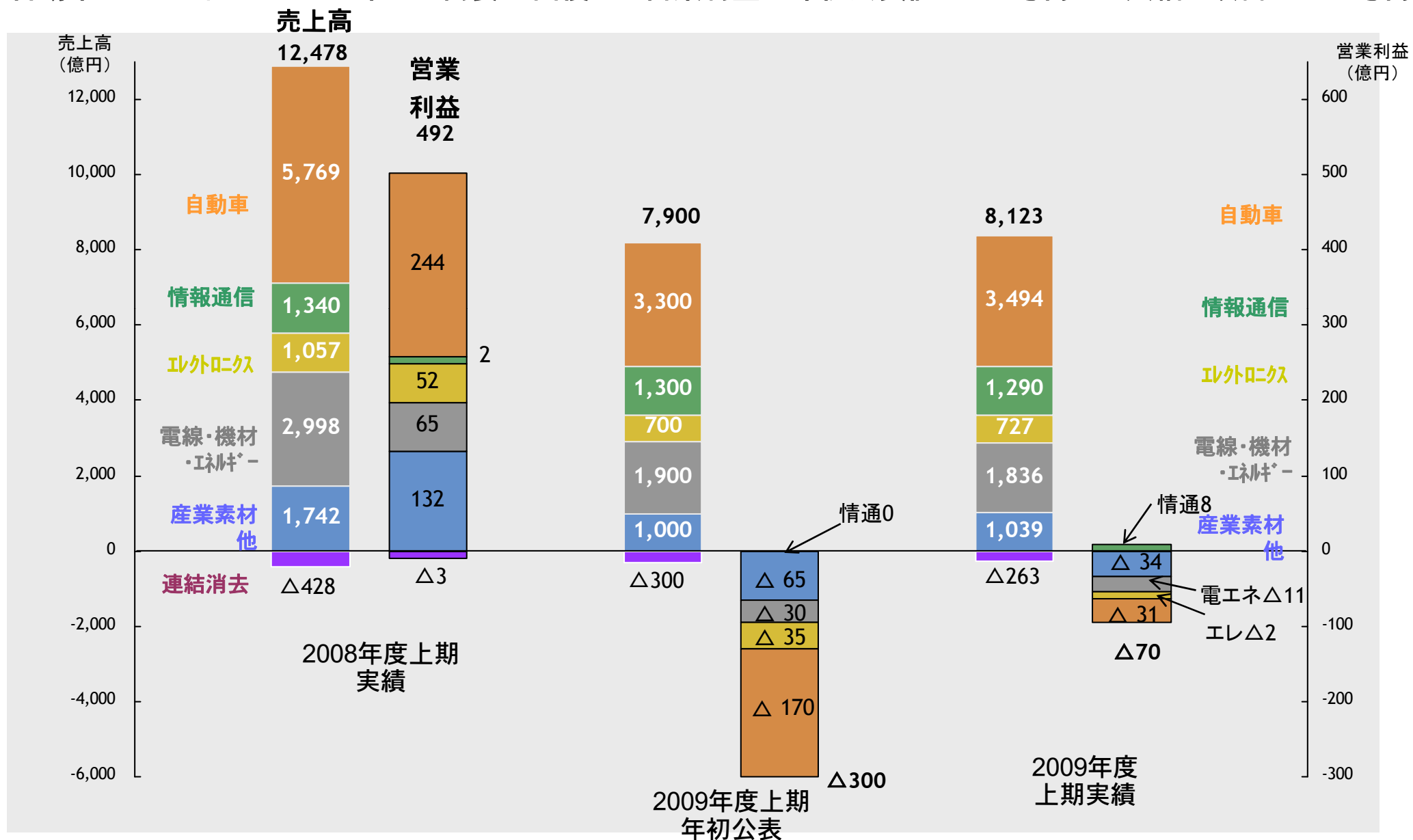




2009年度上期 セグメント別業績の概要

FY2009 1st Half Result

自動車・エレクトロニクスを中心に需要が回復し、営業利益は年初公表値△300億円から大幅に改善し△70億円。





2009年度 連結業績予想

FY2009 1st Half Result

下期営業利益は、円高や 情報通信関連の補正予算削減の影響もあり、年初450億円→今回400億円に修正。

年間営業利益は、上期改善により 年初 150億円→今回 330億円。

下期前提： 為替 90円/\$,130円/€ 銅 建値55万円 (LME5500\$)

(単位：億円)	2008年度 実績	2009年度 年初公表	2009年度 予想	前年比 増減率	公表対比 増減率
売上高	21,220	17,800	18,000	▲15%	+1%
営業利益	235	※ 150	※ 330	+40%	+120%
経常利益	378	170	400	+6%	+135%
当期純利益	172	100	130	▲24%	+30%
設備投資額	1,316	800	820	▲38%	+3%
減価償却費	1,082	1,000	1,000	▲8%	-
研究開発費	730	730	750	+3%	+3%
ROA ※	1.6%	1.1%	2.3%	+0.7%	+1.2%
ROE	1.9%	1.1%	1.5%	▲0.4%	+0.4%

※ROA=営業利益/期中平均使用資本

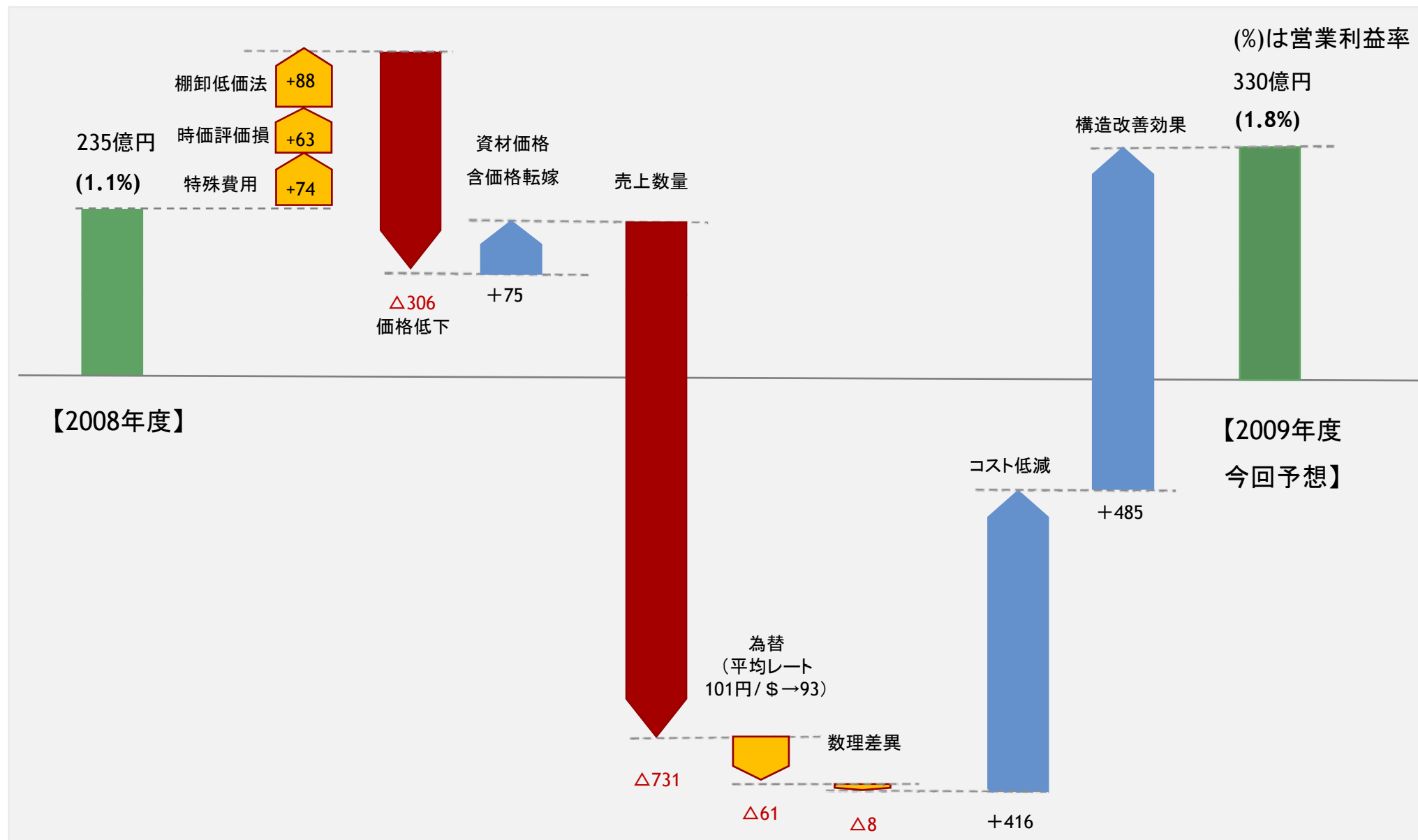
※	上期	△300	△70
	下期	450	400



営業利益の増減益要因 ～2008年度/2009年度

FY2009 1st Half Result

売上数量は大幅な減少となるが、構造改善効果・コスト低減により営業利益は330億円を確保。



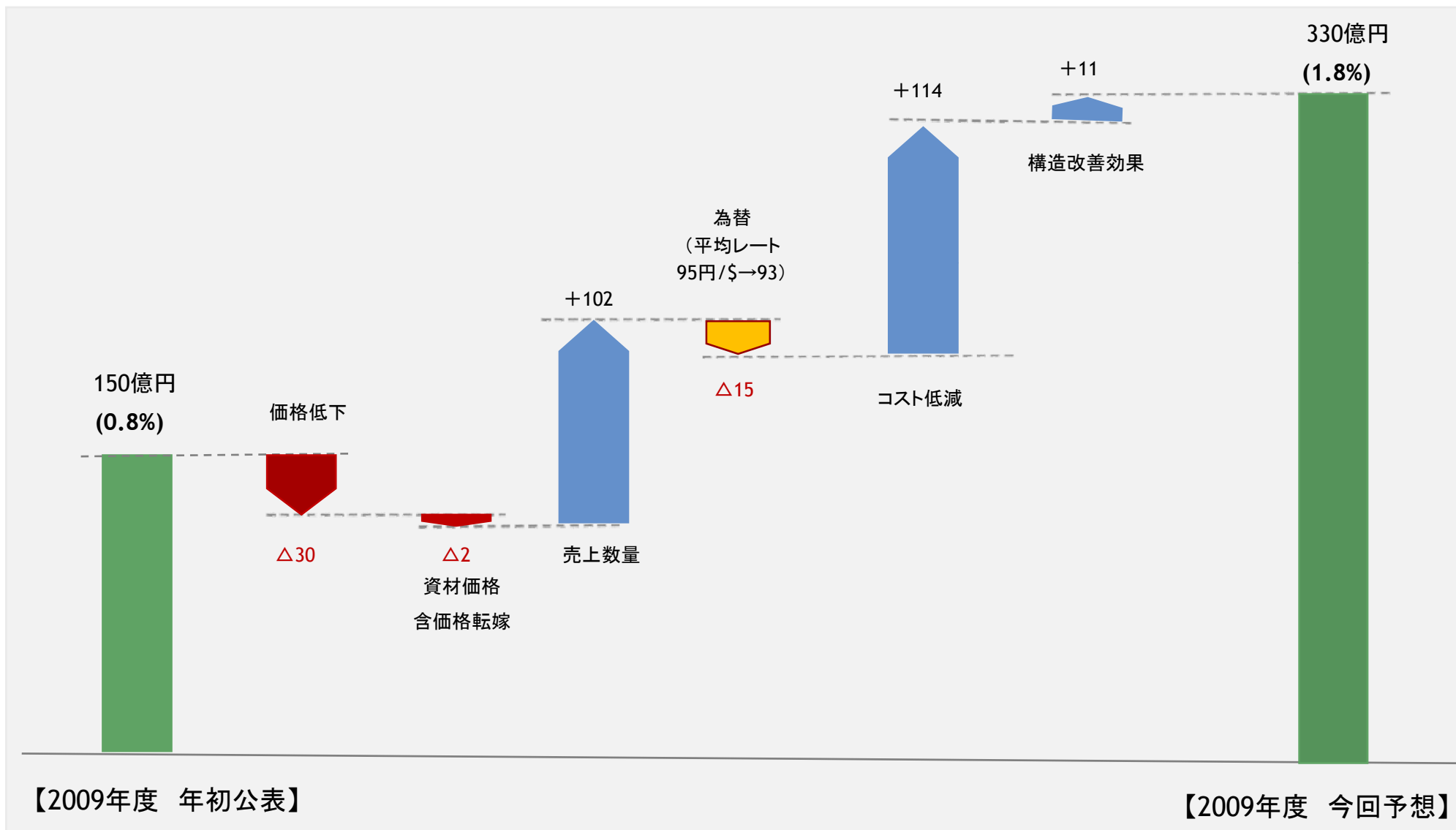


営業利益の増減益要因 ～2009年 年初公表/今回公表

FY2009 1st Half Result

年初公表対比では、売上数量の増加、コスト低減が想定以上に進んだことから、
営業利益は+180億円の330億円の見込み。

(%)は営業利益率



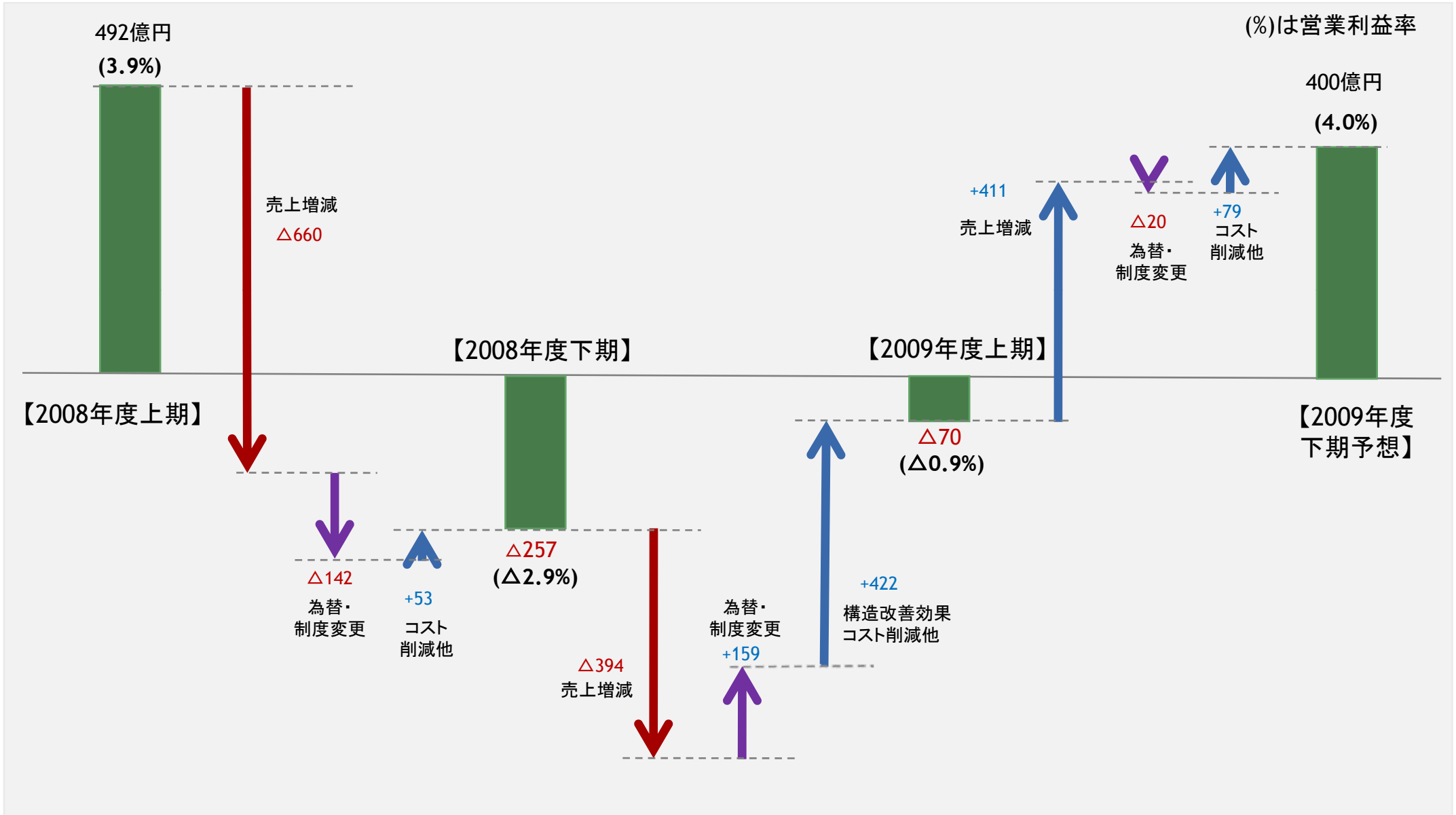


営業利益の増減益要因

2008年度上期～2009年度下期

FY2009 1st Half Result

09年下期は08年上期並みのレベルに回復。

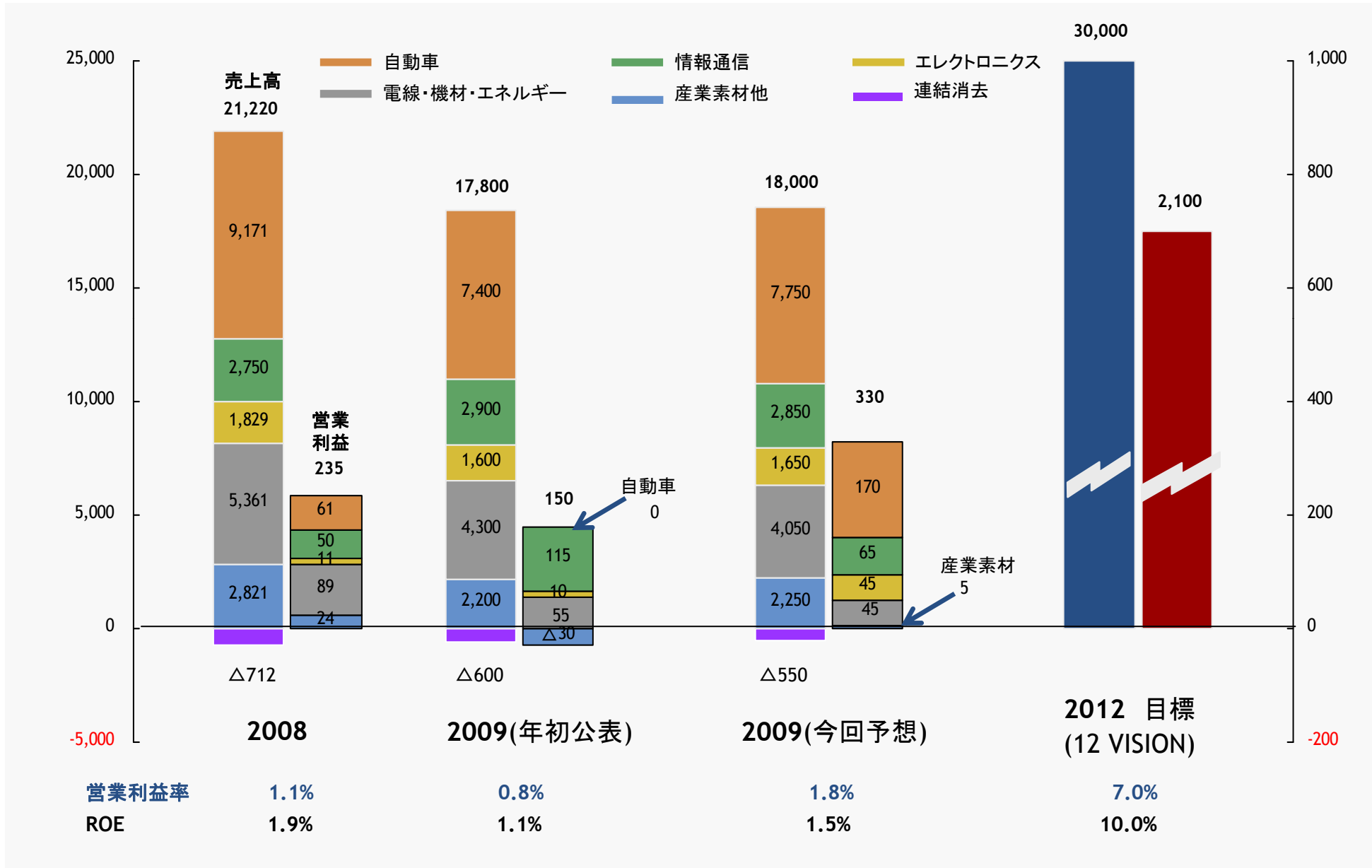




2009年度 セグメント別業績予想の概要

FY2009 1st Half Result

営業利益は、年初計画対比 自動車・エレクトロニクスを中心に改善。産業素材も黒字確保。





構造改善対策・体質強化策の継続実施

- ・身の丈にあった組織とコスト構造の再構築
- ・内部固めの拡大と深耕
- ・教育再武装運動の強化



成長に向けた重点テーマ

1. 新興国対応

- ・旺盛な自動車関連需要捕捉
- ・電力・通信網などのインフラ需要の捕捉

2. インフラ需要の捕捉

- ・中近東、アジアなどの電力関連需要や光ファイバ・ネットワーク機器など通信関連需要の捕捉
- ・橋梁・高速道路など、建設需要の確保

3. 環境対応

- ・低燃費車に向けた製品開発・拡販(軽量ハーネス、HEV・EV向け高圧ハーネスなど)
- ・再生可能エネルギー関連商品の開発・拡販
- ・超電導、パワーデバイスなどの環境関連技術の開発・事業化



構造改善策の進捗状況

FY2009 1st Half Result

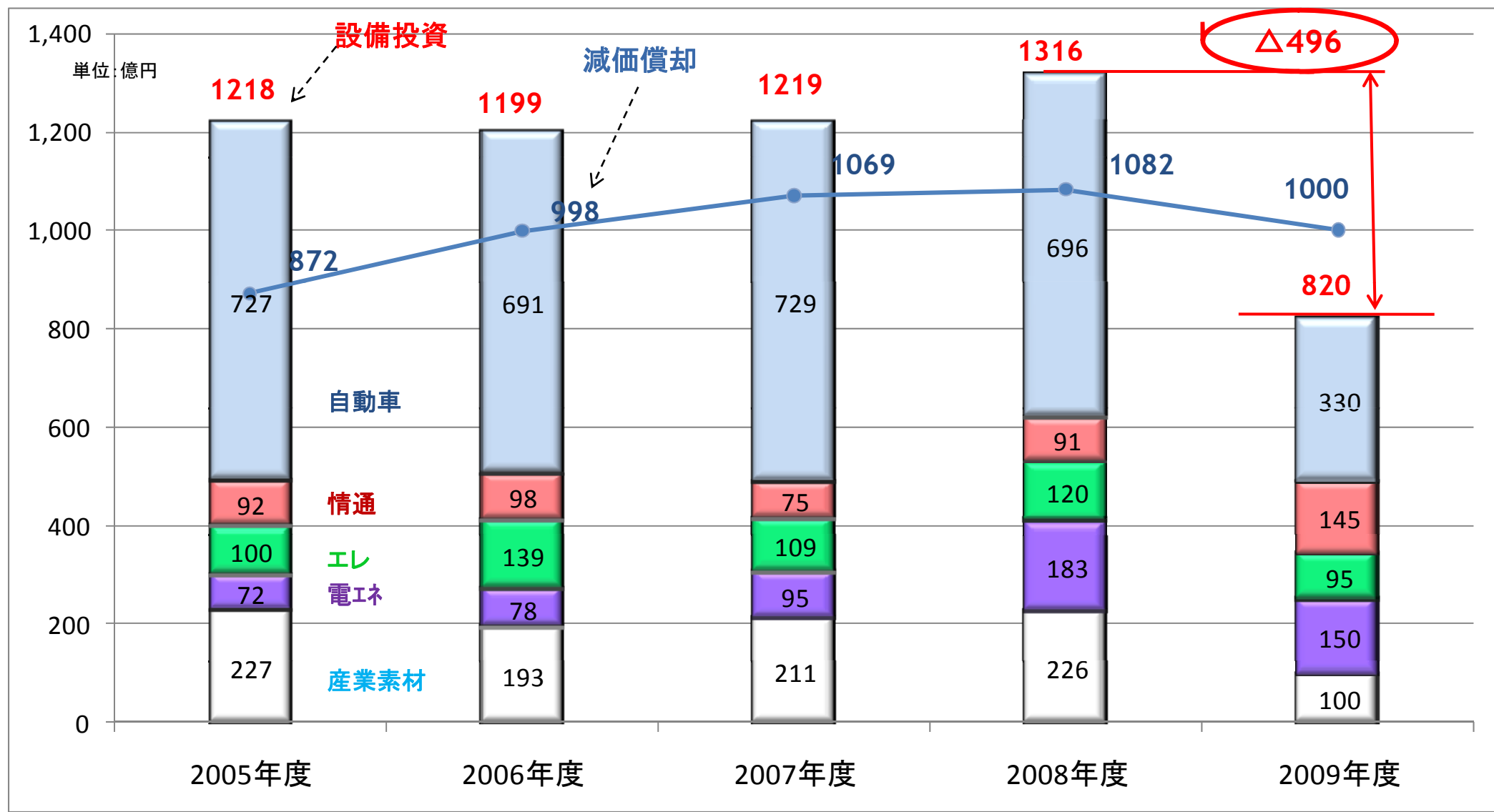
上期の構造改善効果は経費削減が進み、年初計画を上回る(+11億円：年初221→実績232)。
下期は年初計画並を予測し、年間の構造改善効果は485億円となる見込み。

	上期		下期		年間	
	年初計画	実績	年初計画	見込み	年初計画	見込み
人員削減 人件費減	133	134	142	142	275	276
経費削減 生産拠点再編 減損効果他	88	98	111	111	199	209
合計	221	232	253	253	474	485

2009年度 コスト低減の推進 ～ 設備投資削減と減価償却費見通し

FY2009 1st Half Result

09年設備投資は△496億円減少（△38%）。減価償却費も △82億円（△8%）の減少見込み。

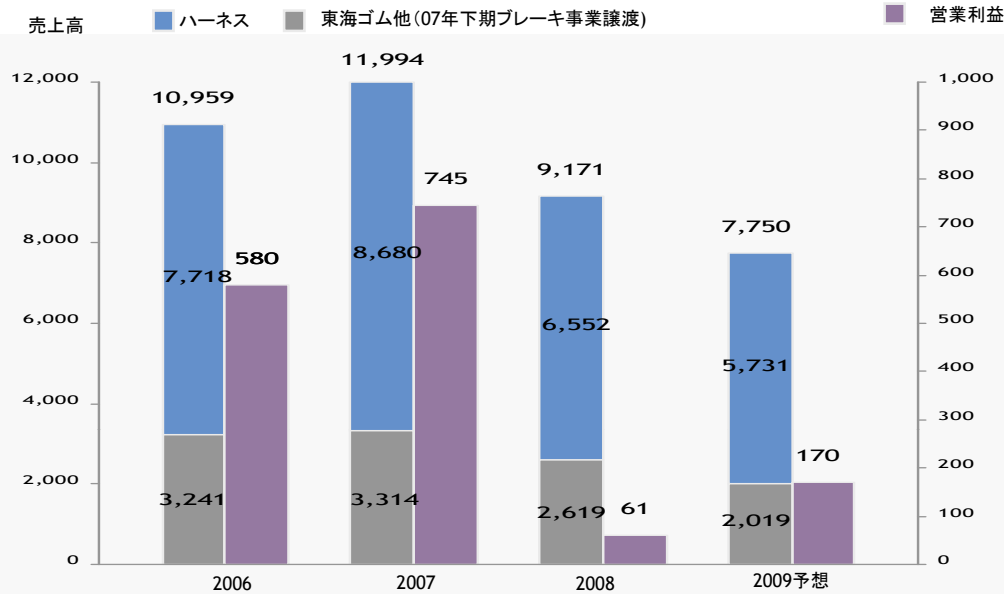




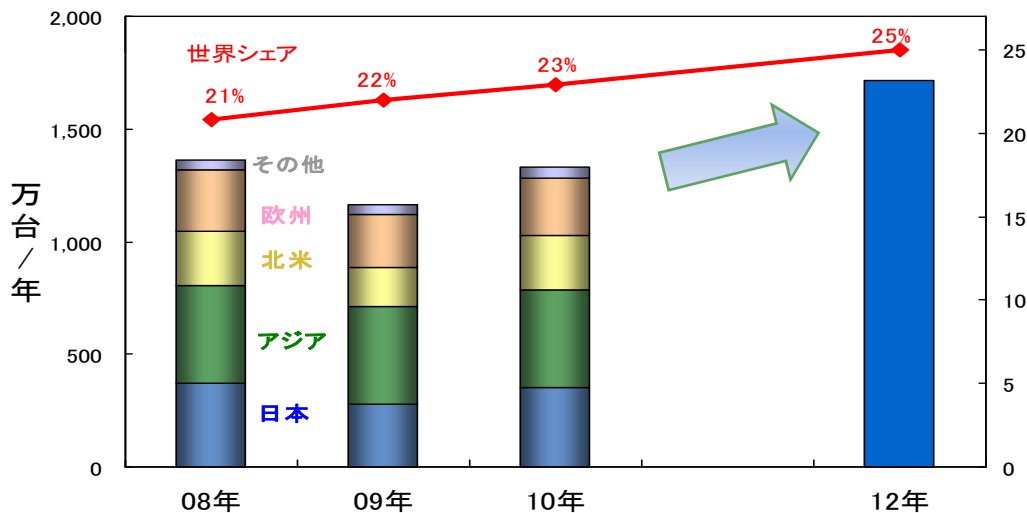
成長戦略 - 自動車セグメント

FY2009 1st Half Result

売上高/営業利益(億円)



ハーネス当社受注台数 世界シェアの見通し



自動車セグメントの主要課題と進捗状況

■主要課題

- ①ハーネス・グローバルシェア25%の達成
 - 日系 : 重要車種、世界戦略車の確実な受注、新興市場(BRICs等)での受注獲得
 - 非日系: 営業及び海外拠点の強化、民族系への対応強化 (2012年シェア15%獲得)
 - 他メーカーからの転注対応
- ②事業運営の効率化と総原価低減
 - 東欧→北アフリカ、北米→アセアンなど、低コスト地域への工場移転・生産移管の促進
- ③新製品・新技術開発: 小型軽量、環境対応、ネットワーク化等
 - 軽量化(銅・ステンレス複合導体、アルミ電線、コネクタ小型化)
 - HEV・EV向けの床下ケーブル、高圧ケーブル、プラグイン、電池廻り部品等
 - POWER & LAN(住友グリーンハーネス)の開発

■進捗状況

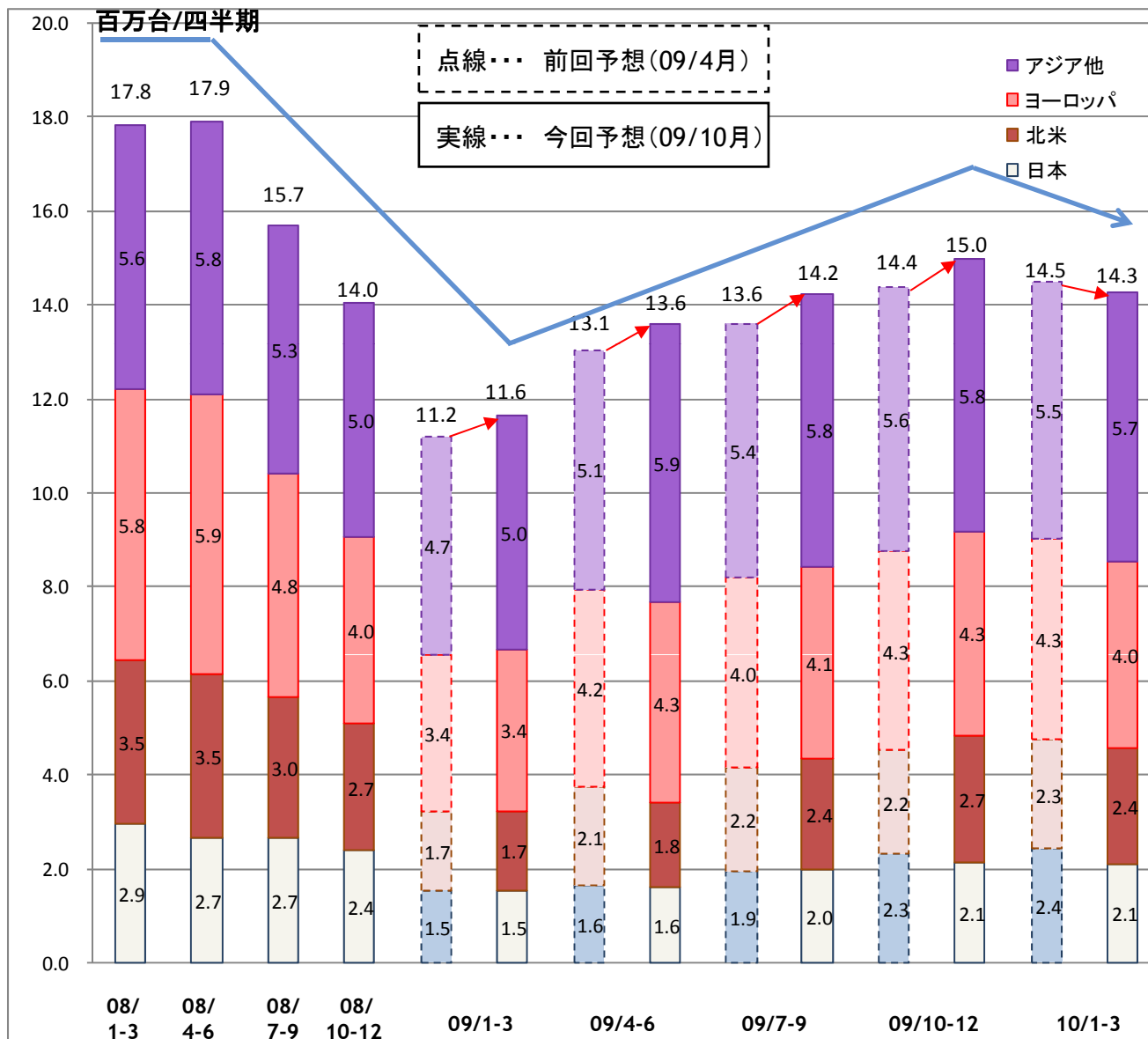
- 非日系受注活動強化
 - 09年: ルノー、PSA(プジョー・シトロエン)、FORD 新規車種円滑立上
- 需要環境に見合った生産体制の構築、人当たり生産性の向上
- 北米⇒アジアへの生産移管促進(調達比率約60%へ)、東欧生産縮小、アフリカ生産シフト推進
- HEV車向け高圧ハーネス、周辺製品の開発・受注強化
- アルミ電線の量産開始



世界の自動車需要の予測

FY2009 1st Half Result

世界の自動車生産予測 (CSM Worldwide 09/10/5)



生産台数比較

百万台
暦年ベース (前年増減)

年	上期 [1-6月]	下期 [7-12月]	年間
08年実績	35.7	29.7	65.4
09年年初予想	($\Delta 32\%$) 24.3	($\Delta 6\%$) 28.0	($\Delta 20\%$) 52.3
09年今回予想	($\Delta 29\%$) 25.2	($\Delta 2\%$) 29.2	($\Delta 17\%$) 54.4

各国の購入支援策などにより、
年初予想比、需要回復($\Delta 20\% \rightarrow \Delta 17\%$)。

下期は、年初28.0百万台 \rightarrow 今回29.2
(+4%)と年初比で需要増加を見込む。

シェア面では、欧米などの自動車部品
メーカーの倒産や財務体質悪化から、
カーメーカーの、他サプライヤーから当社
への転注が増加。

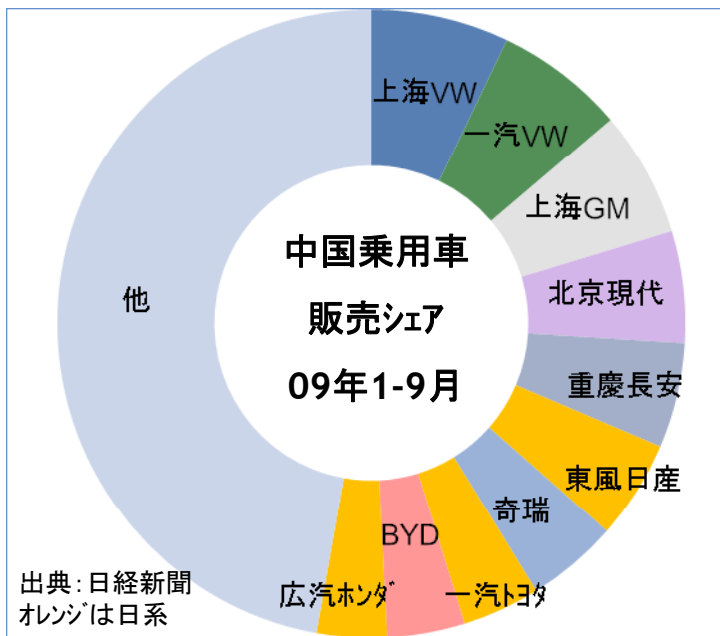
(売上寄与は2010年度以降)



新興国市場への取り組み①

中国

FY2009 1st Half Result



中国自動車生産台数は09年 1000万台を突破し、世界一へ

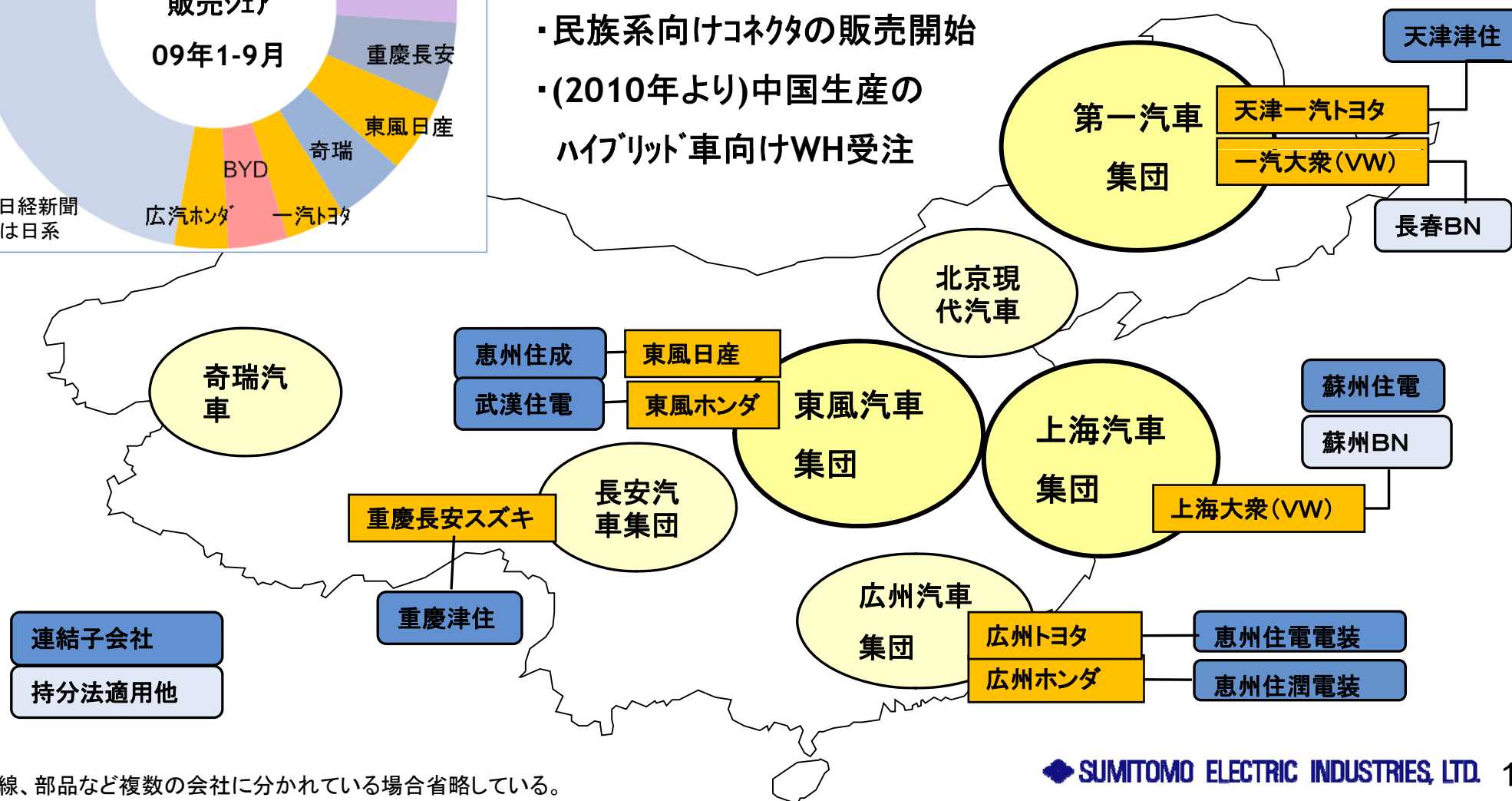
・当社は、VW、日系向を中心に、中国シェアは推定19%(09年)

<今後の取組>

・上海テクニカルセンターを活用し、市場調査・部品現地調達推進

・民族系向けコネクタの販売開始

・(2010年より)中国生産のハイブリッド車向けWH受注



※電線、部品など複数の会社に分かれている場合省略している。



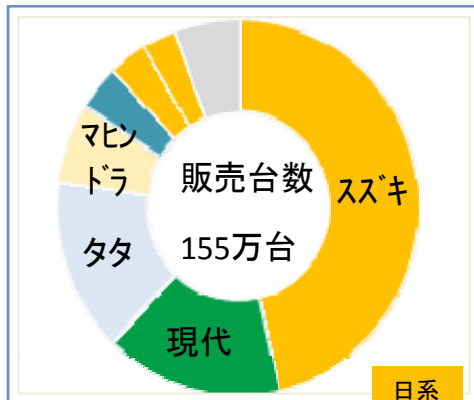
新興国市場への取り組み②

インド/ブラジル

FY2009 1st Half Result

インド市場の取り組み

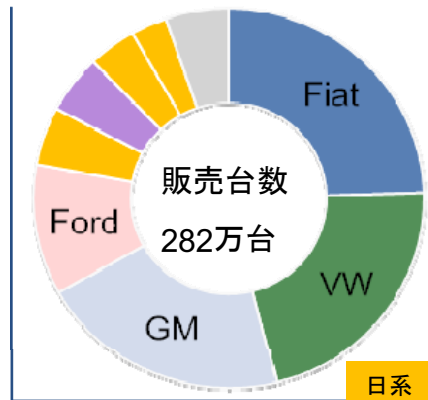
08年度カーメーカーシェア



インドではスズキ(マルチスズキ)が、約50%の高シェア。
 当社顧客は、スズキ、現代、日系カーメーカーに、高シェア。
 当社推定シェアは 59%(08年)。
<今後の課題>
 スズキ・現代向けのシェアキープ
 現地資本カーメーカー向けシェアアップ

ブラジル市場の取り組み

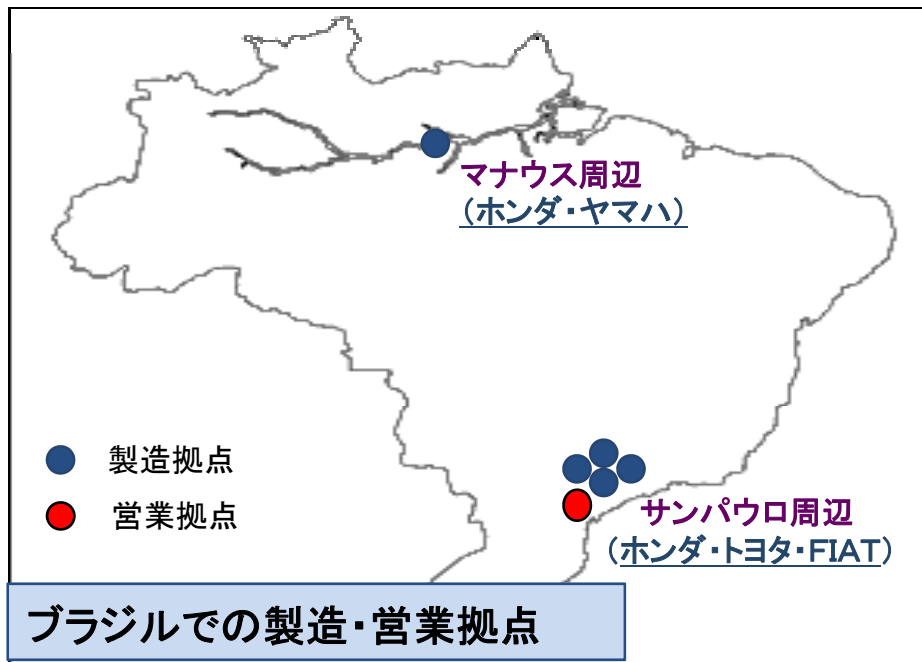
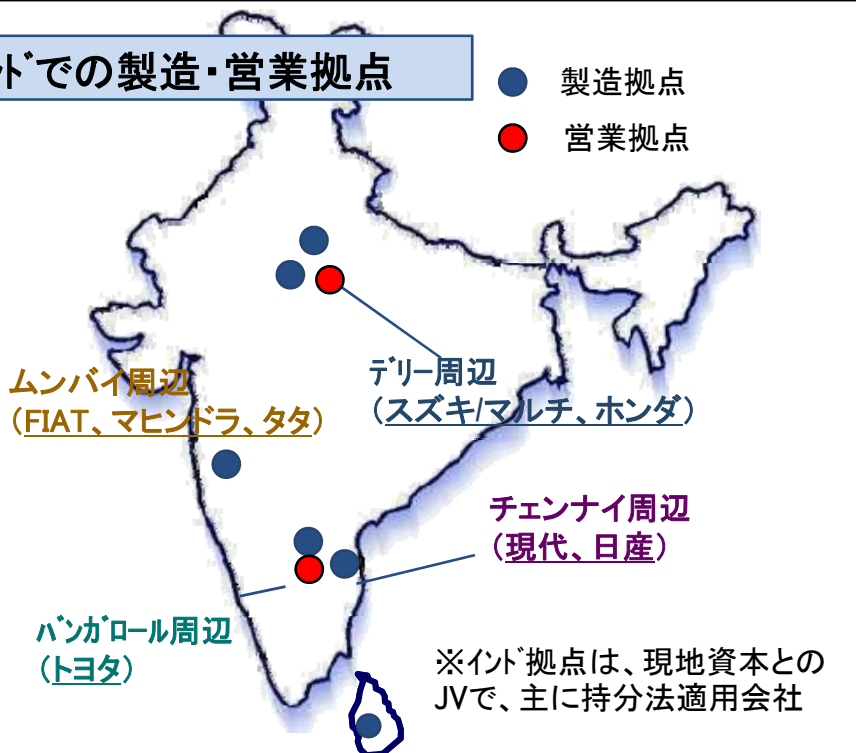
08年度カーメーカーシェア



ハイ燃料主流により日系カーメーカーは出遅れも、巻き返しに注力中。
 当社顧客は Fiat、日系2輪・4輪
 当社推定シェアは12%(08年)。
<今後の課題>
 ・日系カーメーカーシェア拡大
 ・VW他新規顧客向けシェア獲得
 ・客先の近隣国進出(アルゼンチン等)に対応し、需要捕捉

インドでの製造・営業拠点

- 製造拠点
- 営業拠点



ブラジルでの製造・営業拠点



ワイヤーハーネスの技術注力テーマ

FY2009 1st Half Result

HEV/EV(高圧品)トップメーカーに向けて、ケーブルに加え、充電コネクタ、電池周りへ参入

バスリング



パワーケーブル



床下ケーブル



充電コネクタ



HEV/EV
(高圧関係)

電池パック
関連

軽量化技術・低コスト部品

燃費向上に寄与する軽量化技術と

低価格車向け高コストパフォーマンス製品の開発

アルミ電線



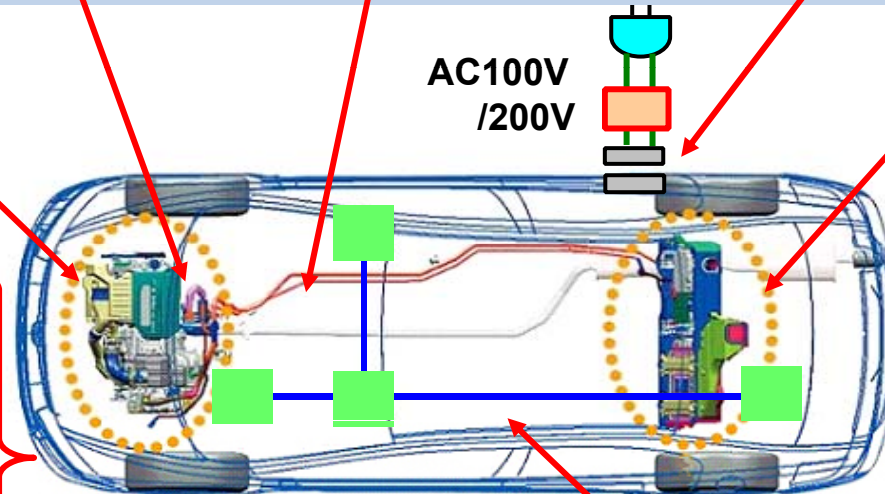
・アルミハーネス(銅の30%)
高信頼性接続技術

低コスト部品



・低コスト電線
←ハロゲンフリー電線
PVC電線など

・コネクタ類
機電一体型
コネクタなど

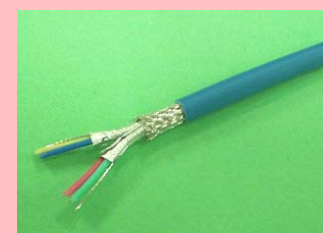


電力・信号
分配機器

高速LAN用機器&ケーブル

Power
& LAN

民生技術を
車載用に展開



高速LAN用ケーブル



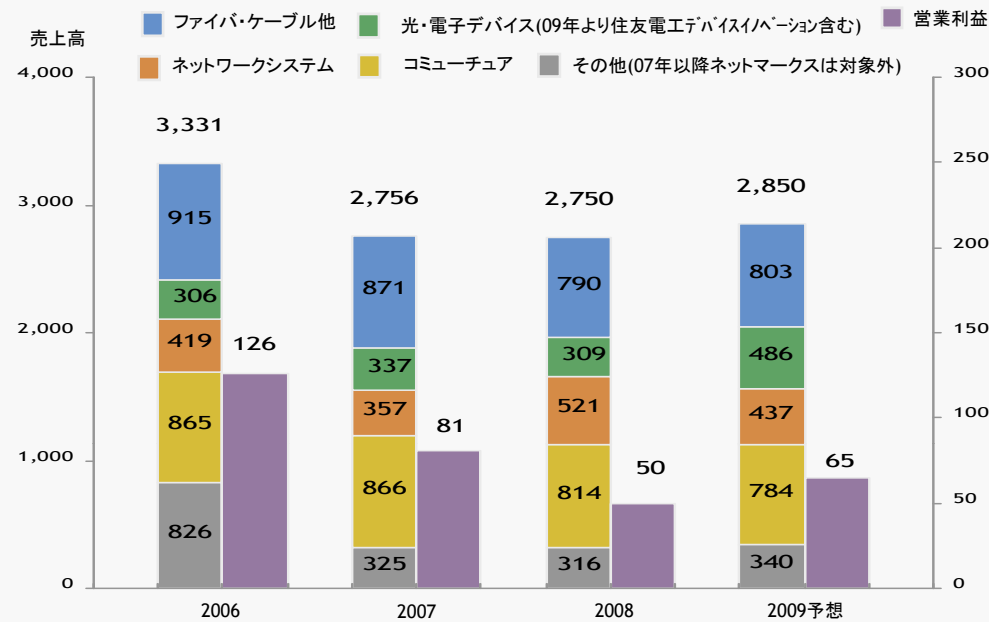
光リンク&光ファイバ



成長戦略 - 情報通信セグメント

FY2009 1st Half Result

売上高/営業利益(億円)



情報通信セグメントの主要課題と進捗状況

■主要課題

- ①価格競争力の強化、コスト低減
- ②海外ブロードバンド・FTTH関連需要の捕捉、グローバル事業展開 (欧州、米国、中国、アジア)
- ③光部品(光通信用コンポーネント): シェア拡大、10G製品群拡充
- ④NGN(次世代ネットワーク)対応ネットワーク機器、無線関連製品の開発・拡販

■進捗状況

■光ファイバ

- 国内需要停滞に対応し、拡大中の中国・インド等での需要捕捉
- 中国で富通と合弁会社を設立、生産能力拡充と中国全土での販売強化
杭州に光ファイバ・母材製造会社を設立(2010年9月稼働予定)
成都に光ケーブル製造会社を設立(2008年12月稼働)
香港に持株会社を設立(華南地区既存2製造会社を統括)
- Nexans光ケーブル子会社(ベルギー、2008年12月出資)との拡販促進

■光・電子デバイス

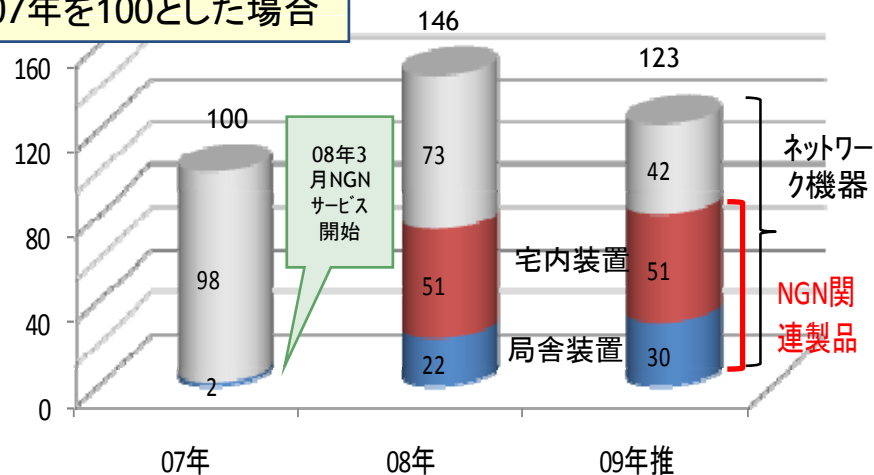
- ユーティリティデバイス(富士通とのJV、以下EUD社)を2009年4月に100%子会社化。
8月に当社・EUD社の組織再編を行い、住友電エデバイス・イノベーション(以下SEDI社)を設立。今後シナジー効果を追求。
・アクセス系から幹線系までの商品ラインナップを充実
・営業を当社に統合し、当社の商流、ブランド、ネットワークを活用
・研究を当社に統合し、研究を効率化・加速化
・製造・開発をSEDI社に集約し、製造を効率化
- 中国蘇州での光通信用コンポーネントの一貫生産開始(08年4月)
国内から中国へ生産シフトを進め、コストを低減

■ネットワーク機器

- NGN関連先行投資は一巡。NGN、無線関連など新製品立上に注力
- 海外成長市場への参入
GE-PONを中心に、台湾、香港、中国などアジア中心に拡販

ネットワーク機器の売上推移

07年を100とした場合

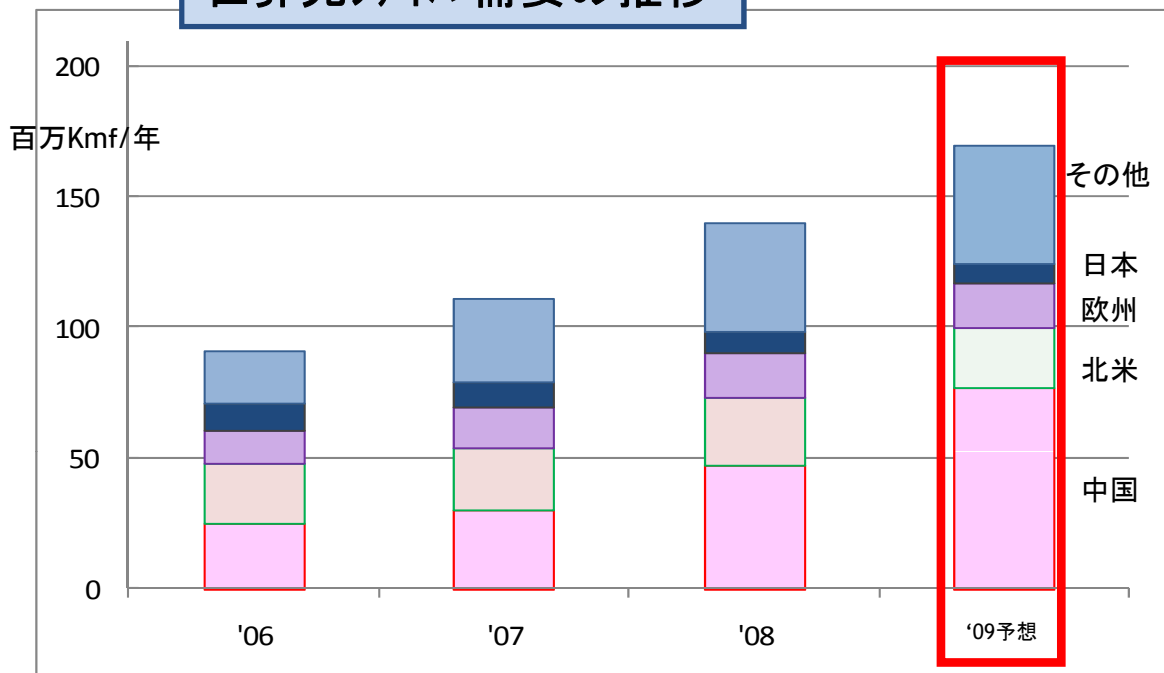




光ファイバ・ケーブル事業の取り組み

FY2009 1st Half Result

世界光ファイバ需要の推移



年初予想を見直し

中国では携帯電話用、メタル線置き換えを中心に、需要が前年比50%以上の大幅な伸び

⇒ 中国拠点の一層の充実

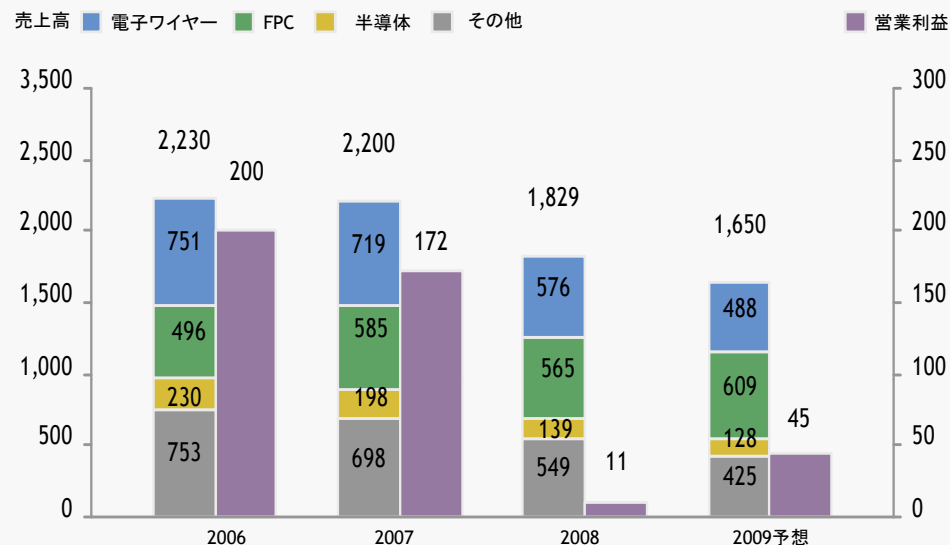
- ・富通とのケーブル製造・販売JVの一層の活用
- ・現地母材生産会社の早期立上
(2010年9月稼働予定)

“その他”の地域では、需要が増大する
アジア各国への拡販を促進

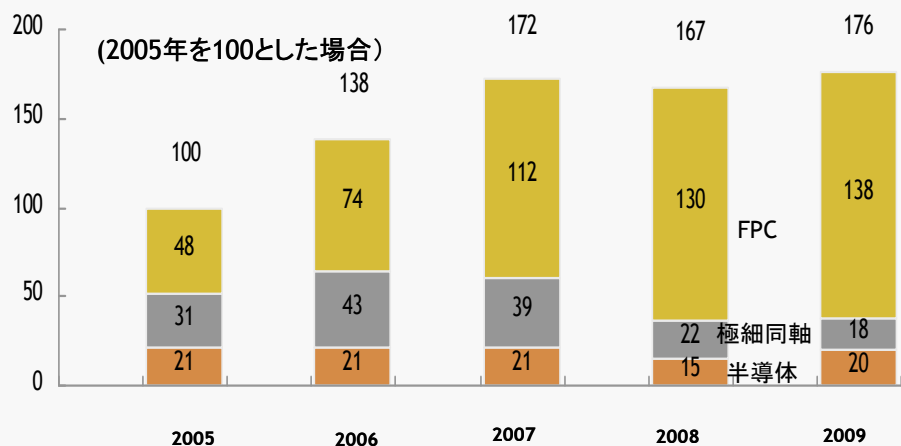
エリア	需要環境	生産拠点	当社状況
中国	➡	富通JV他	受注大幅増加。能力一杯まで生産。
北米	➡	SEL	需要は△10%強減少。得意製品での拡販進める。
欧州	➡	Nexans JV	需要は横ばいも、JV効果で受注は増加。
日本	➡	横浜、栃木	FTTH加入者が伸びず、国内需要は低迷。輸出は増加。
合計	➡		中国需要増加が大きく、全体として受注増。



売上高／営業利益(億円)



携帯用極細同軸/FPC/半導体売上



エレクトロニクスセグメントの主要課題と進捗状況

■主要課題

- ①成長分野(携帯、液晶、ストレージ、ゲーム機等)向け製品の強化・拡販
- ②グローバル営業・生産体制の強化
- ③高付加価値製品の拡販と主力製品の原価低減
- ④新製品投入と新技術開発

■進捗状況

■電子ワイヤー

- 極細同軸は海外搭載モデルが減少。医療等他分野への拡販推進。
- 車載タブリード(FC)の円滑な立ち上げと拡販
- 中国でのエレクトロニクス向け需要(ハロゲンフリー電線、スミカド等)の捕捉
- 総原価低減による競争力確保

■FPC

- 海外営業体制を強化し、外資系顧客への拡販強化
- スマートフォン、ゲーム機、HDD向けなど高付加価値品の拡販強化
- 部品実装・モジュール化ビジネス拡大
- 海外上工程展開(中国他)によるコスト低減

■半導体

- GaN基板のBlu-Ray向け拡販と、ハイパワーLED向け用途の拡大
- グリーンレーザ用GaN基板の開発促進と、早期ビジネス化
- 携帯電話向けGaAs拡販・シェアアップ

■その他

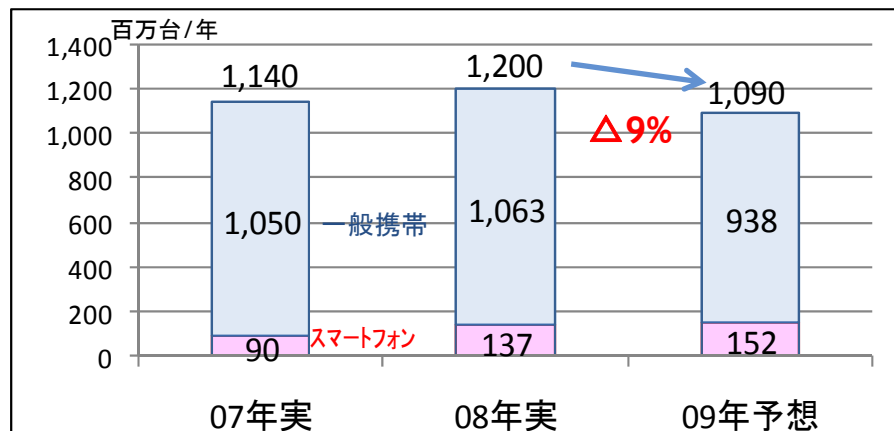
- 水処理用精密濾過膜モジュールの事業推進
- 金属ナノ粒子材料事業の早期立ち上げ



FPC事業の現状と取り組み

FY2009 1st Half Result

世界の携帯生産台数予測



<携帯電話を取り巻く環境>

09年世界携帯生産台数は
マイナス成長△9% (国内市場は△20%)
一方、スマートフォン市場は続伸+11%

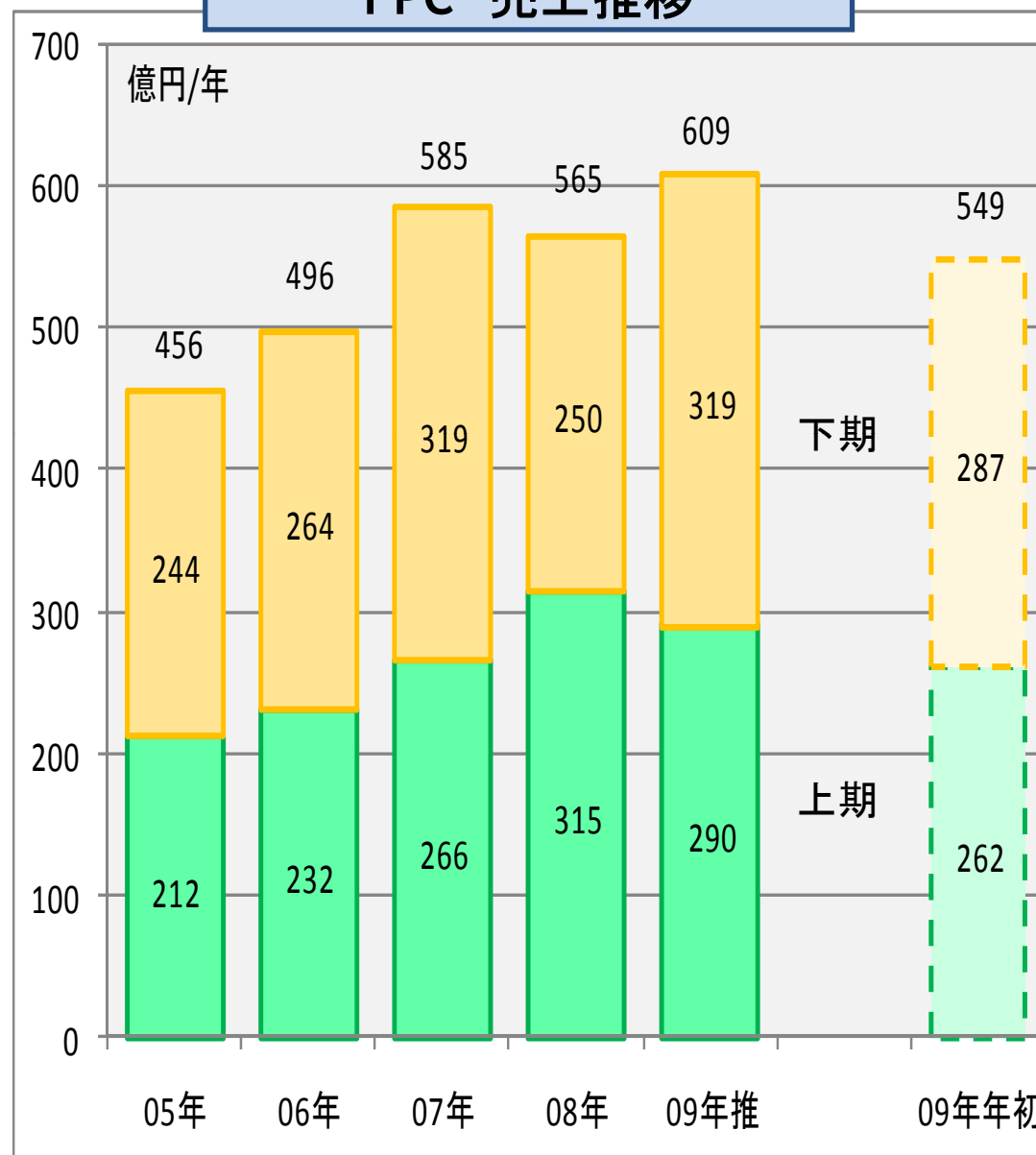
<今後の取り組み>

- ・外資系携帯メーカーへの一層の拡販
- ・増大するスマートフォン需要の確保
- ・HDD・ゲーム機向けの拡販
- ・上工程海外展開(中国他)によるコストダウン
中国は、委託加工から、独資に転換し、
新工場にて一貫生産化(2010年)

高付加価値品に特化

⇒ 需要環境厳しいものの、増収予想

FPC 売上推移





GaN基板の製品開発と今後の取り組み

FY2009 1st Half Result

Blu-Ray(青紫色レーザー)用途

- ・市場動向: AV用は漸く販売が増加するも期待のPC用は伸びず。
- ・技術動向: 顧客歩留向上、チップサイズ小型化
⇒ **Blu-Ray以外へ用途拡大を促進**

GaN の用途拡大 進捗状況

GaN基板優位性(放熱性・導電性=ハイパワー)を活かし、用途拡大を目指す

09年5月～

LED用途(機器用白色ハイパワーLED)販売開始

<今後のLED用途展開>



液晶バックライト
光源用途



高輝度LED照明

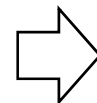


自動車用LED
ヘッドライト

世界初の純緑色レーザー開発



- ・世界最長波長531nm(純緑色)
- ・緑色領域で任意波長の選択可能
⇒ 緑色全波長をカバー可能
- ・高電流下で発信波長変化が小
⇒ 高出力用途に対応



製品化に向け、開発を加速

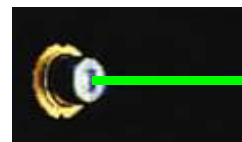
- ・プロジェクタ市場立ち上がりへ対応
- ・レーザーTVなど新アプリ開拓

レーザーディスプレイ
イメージ

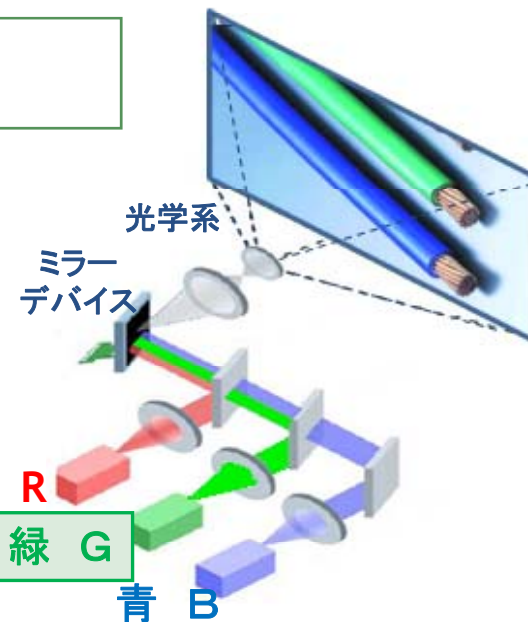
高出力のグリーン

レーザーが揃い、RGB3

原色レーザー光源が実現



赤 R
緑 G
青 B

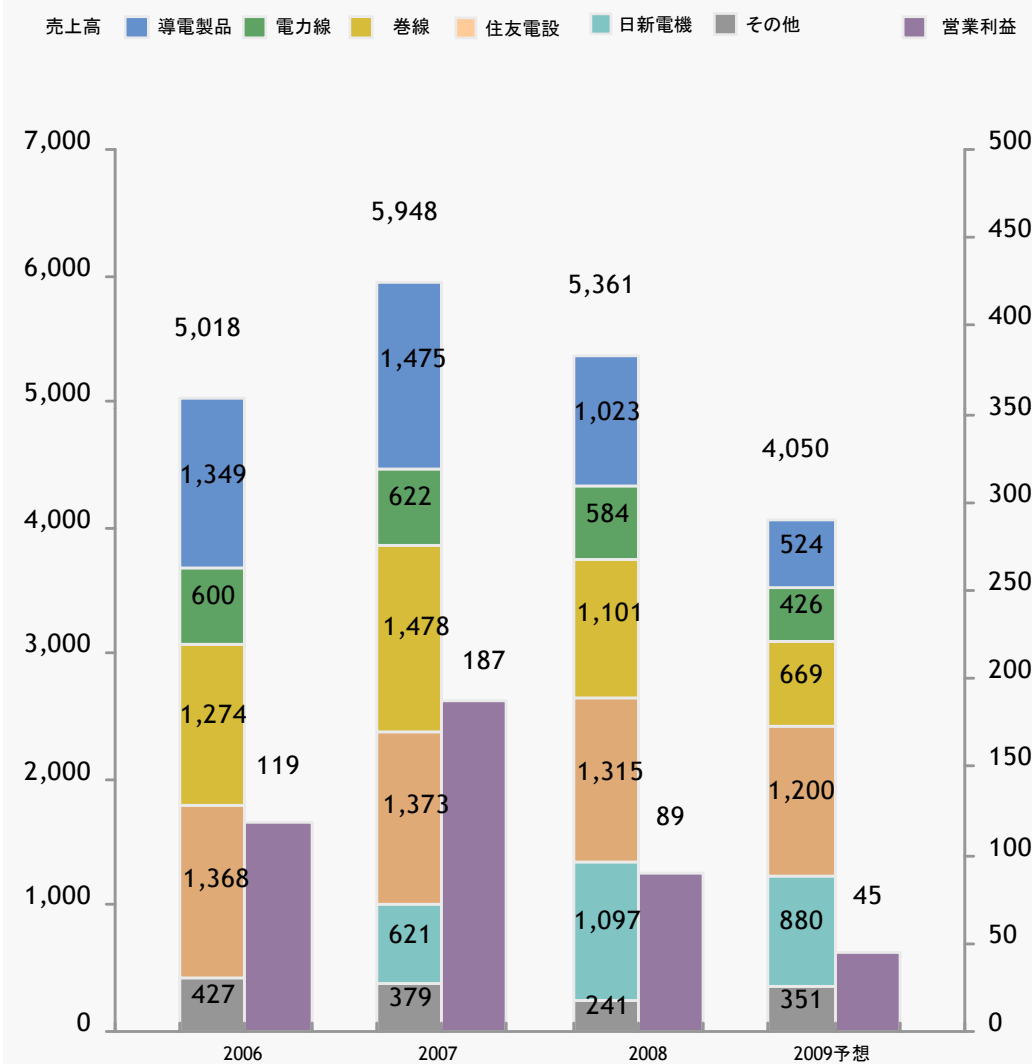




成長戦略－電線・機材・エネルギーセグメント

FY2009 1st Half Result

売上高／営業利益(億円)



電線・機材・エネルギーセグメントの主要課題と進捗状況

■主要課題

- ①成熟分野の更なる構造改革と徹底したコスト低減
- ②中国・インド・中東等、エネルギー関連需要が旺盛な海外市場への拡販
- ③自動車・エレクトロニクス市場への製品展開
- ④エネルギー・資源・環境分野での新規事業開拓

■進捗状況

- アジア、中東の電力インフラ需要捕捉と生産体制確立
インドにて、JPS(当社50%:持分法適用会社)と現地資本との合弁会社設立(2008年1月設立、2010年稼働予定)
サウジアラビアでもJV設立(2009年7月設立 2011年稼働予定)
- 再生可能エネルギー(太陽光・風力など)の活用、電力効率化に向け、関連製品の開発、拡販
- HEV向等、高強度、高電圧対応巻線の開発と市場投入
- 巻線需要減に対応した生産体制の見直しとコスト低減
- ハイブリッドカー搭載電池用セルメットの生産能力増強
- 鉄道需要の増加に応じた、空気ばね、トロリ線の拡販
- エレクトロニクス分野向け熱制御デバイス事業化
- 超電導ケーブル、超電導応用機器の研究開発と実用化

再生可能エネルギー、電力効率化への取り組み

FY2009 1st Half Result

既存製品に加え、再生可能エネルギー ・ 電力効率化に向けた製品展開を促進



太陽光発電システム 設計・施工 (日新電機・住友電設)

ツバル国
太陽光発電設備



設計・施工・機器納入は1993年より累計約800件。国内トップクラスの実績 (住友電設)

太陽光発電用パワーコンディショナ (日新電機)



太陽光発電の直流電力を交流変換

- ・95%の高い変換効率でロス低減
- ・電圧変動をカバーする広い入力電圧範囲

<将来的展開>

- ・次世代電力網にむけ、低ロスのケーブル・機器・変換器の新規・更新需要
- ・太陽光 (風力) 発電から、超電導ケーブルによる (直流) 送電、SiCインバータによる高効率変換

高温超電導ケーブル



ロス低減

現在の地中送電ロスを半減

省スペース

同面積の銅比200倍の電流を流せる。

- ・省スペース
- ・建設コスト削減



鉄道インフラ需要の捕捉

鉄道需要増加の背景

- ・環境意識の高まり
- ・各国政府の経済対策
- ・運輸効率の再認識
- ・カシティ増加=都市鉄道・都市間高速鉄道需要の高まり

トロリ・剛体電車線

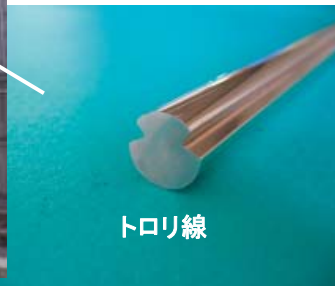
新幹線・一般鉄道・地下鉄などで 広く利用される 車両に電気供給を行う電線。

08年売上実績 18億円 (機器類含む)



〈海外展開〉

- ・海外プロジェクト捕捉
- ・中国現地資本とのJV活用 (煙台金暉住伊電工有限公司)



空気ばね



▲鉄道車両用台車

車体の振動を軽減し、
乗り心地・走行安定性を向上する部品。



▲空気ばね (台車1台あたりに2個使用)

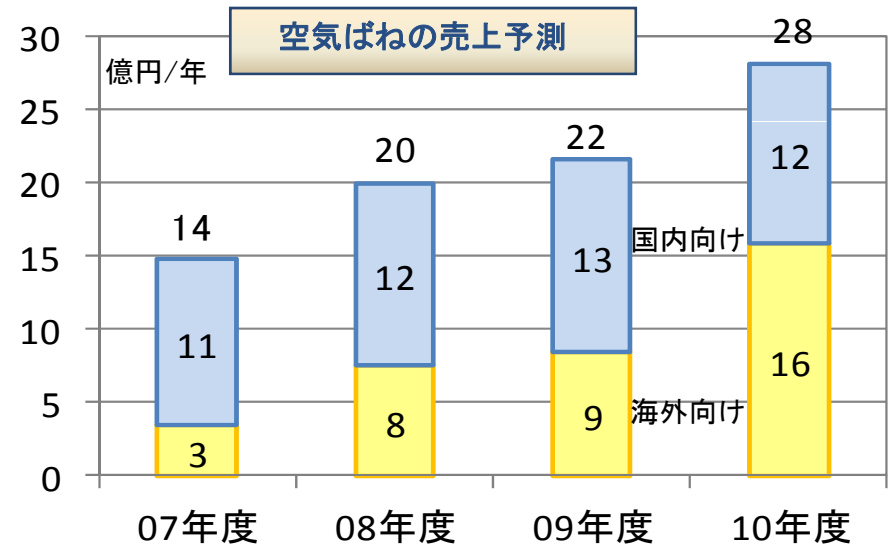
新幹線・地下鉄をはじめ 殆どの車両に装備。

08年度 国内シェア 推定 約4割 (1位)

[世界シェア 推定約14% 3位]

中国・インドなどの需要増に伴い、海外生産・販売網を拡充中。

09年9月 中国に空気ばね・防振ゴムの製造・販売JV設立 (常州住電東海今創特殊橡塑有限公司)

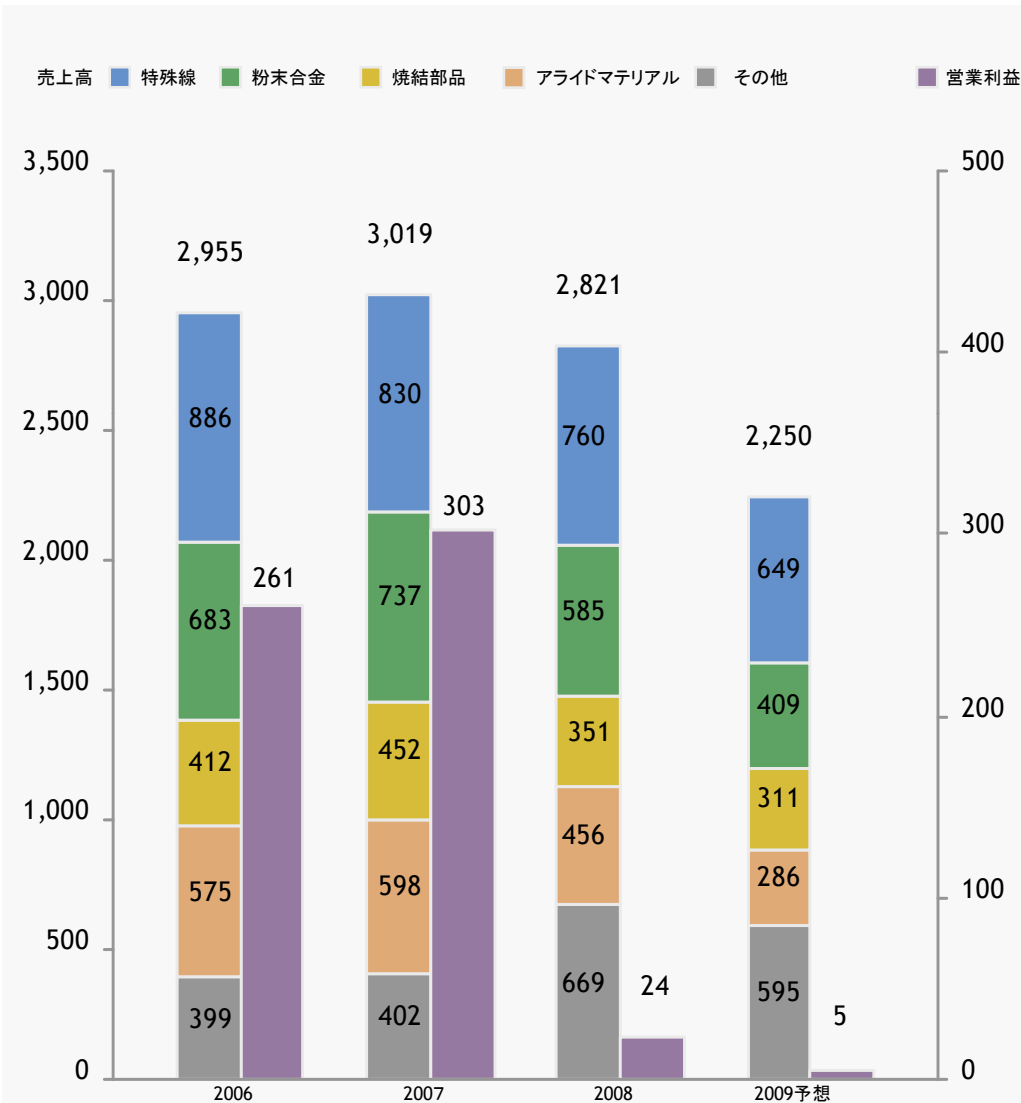




成長戦略－産業素材セグメント

FY2009 1st Half Result

売上高／営業利益(億円)



産業素材セグメントの主要課題と進捗状況

■主要課題

- ①グローバル事業展開の加速(グローバルベスト3製品)
- ②コア技術(新材料及び新製品の開発、加工技術等)の更なる強化、差別化
- ③航空・エネルギー等、自動車以外の分野への製品展開
- ④タングステン等の原材料資源の安定確保

■進捗状況

■ 特殊線

- 橋梁用や空港整備などPC鋼材事業の国内外需要の捕捉
- ばねOT線、ソーワイヤーの生産集約とコスト低減
- 太陽電池向けソーワイヤー拡販
- スチールコードの海外拡販とコスト低減
- 住友ゴムとタイアップしたグローバル事業展開

■ 粉末合金

- 中国向け支店開設(大連他)など、新興国向けの営業強化
- TA, CBNなどの生産拠点集約とコスト低減
- 自動車以外(航空機、発電、鉄道など)の分野への営業強化
- 超硬工具のリサイクルにつき名古屋大学と共同研究継続

■ アライドマテリアル

- 液晶用ターゲット材、ヒートシンク、微細ダイヤモンド工具などの拡販と原価低減

■ 焼結製品

- 一般品の岡山工場集約など、生産拠点集約とコスト低減



粉末合金事業の市場開拓の取り組み

FY2009 1st Half Result

	2007年	2012年Vision	取り組み						
地域別	<p>737億円</p>	<p>1,000億円</p>	<p><新興国市場対応強化></p> <p>1.中国</p> <ul style="list-style-type: none"> ・支店網拡大:上海・広州・北京+大連+重慶+成都+深圳 ・駐在員増(15名体制):ツールング対応力強化 ・製造拠点拡大+ツールエンジニアリングセンター設置 <p>2.インド</p> <ul style="list-style-type: none"> ・現地流通網拡大 ・現地生産品目拡大(マルチドリル、CBN) →ツールング対応力強化 						
用途別			<p><自動車依存脱却></p> <p>1.革新的新材料開発</p> <table border="1"> <tr> <td>ターゲット市場</td> <td>航空機、発電機の耐熱合金加工 →現行セラミックス比能率1.5倍目標</td> </tr> <tr> <td></td> <td>建・産機、自動車の難削鋳鉄加工 →現行セラミックス比能率3倍目標</td> </tr> </table> <p>2.ダイヤ・微細工具開発(ナダイヤ/SCダイヤ/ダイヤコート)</p> <table border="1"> <tr> <td>ターゲット市場</td> <td>医療・通信・電子光学部品・精密金型</td> </tr> </table> <p>微細加工用工機メーカーとの関係強化</p> <p>3.太陽電池加工用光学部品拡販</p>	ターゲット市場	航空機、発電機の耐熱合金加工 →現行セラミックス比能率1.5倍目標		建・産機、自動車の難削鋳鉄加工 →現行セラミックス比能率3倍目標	ターゲット市場	医療・通信・電子光学部品・精密金型
ターゲット市場	航空機、発電機の耐熱合金加工 →現行セラミックス比能率1.5倍目標								
	建・産機、自動車の難削鋳鉄加工 →現行セラミックス比能率3倍目標								
ターゲット市場	医療・通信・電子光学部品・精密金型								



新製品・研究開発 ～コア技術を活用した新規事業領域への展開～

FY2009 1st Half Result



環境自動車向け部品

ナノ多結晶ダイヤモンド
CBN-セラミックス複合材料
原材料リサイクル技術

革新的低環境負荷型素材・
システム技術へのチャレンジ

薄膜線材 船用超電導モータ
超電導コイル
薄型高性能モータ



ビスマス系高温超電導線材
水処理、バラスト水処理装置
高密度電池材料・薄膜電池



次世代安全・環境
自動車に向けた
材料イノベーション

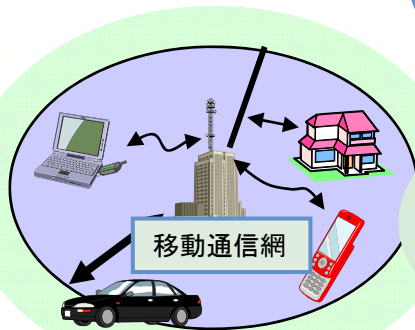
HEV/EV関連技術
ハーネス軽量化技術

リアクトル

車載光LAN、リアクトル



フェムトセル
(超小型無線
基地局)

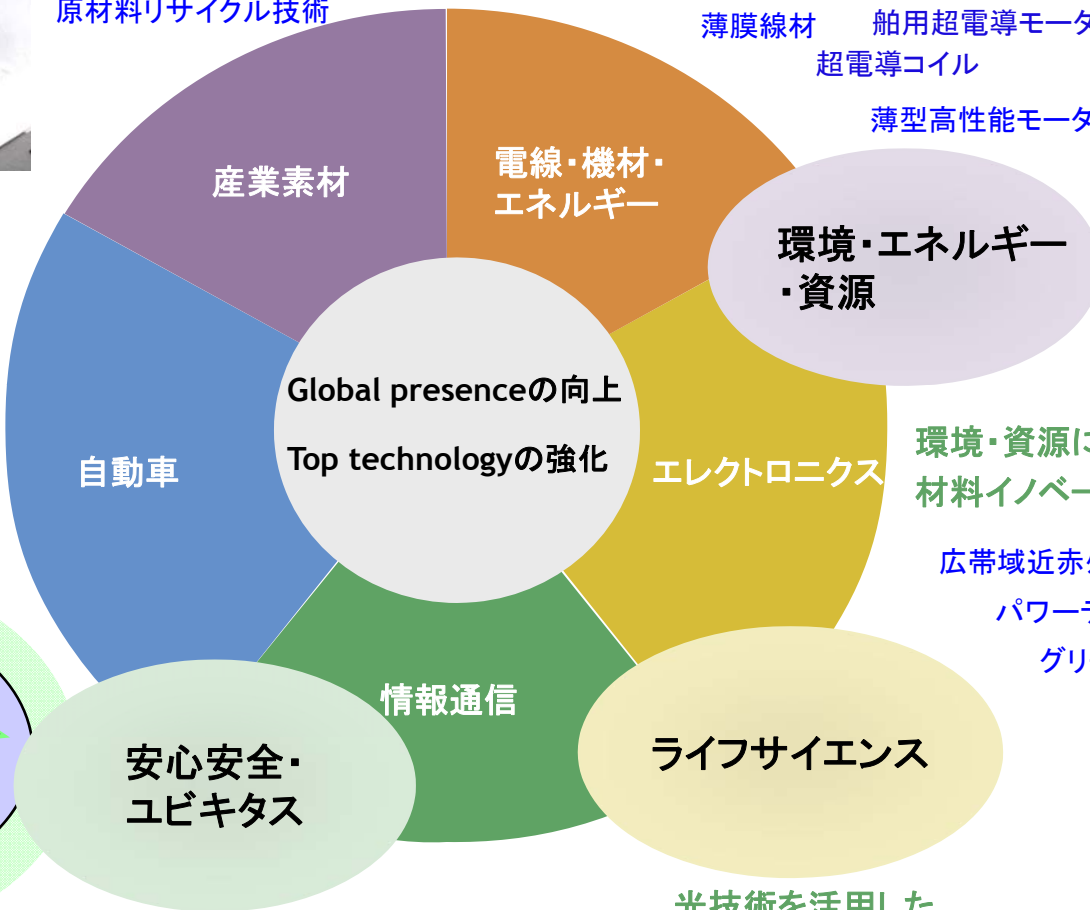


無線アンプ・デバイス
ビジュアル情報システム



高効率無線
増幅器

通信・放送融合と固定・無線統合
に対応する中継器・ITS機器への展開



環境・資源に優しい
材料イノベーション

広帯域近赤外光源
パワーデバイス
グリーンレーザ
Mg合金



Mg合金

次世代光通信事業への展開

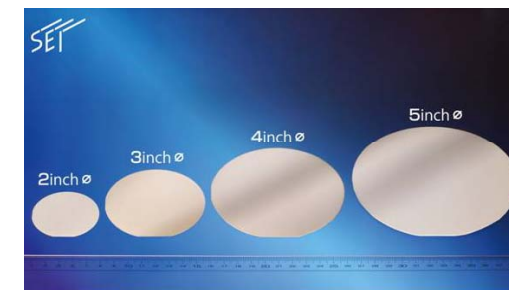
光分岐ネットワーク (PON)
次世代伝送技術(40G・100G)
フォトニック結晶ファイバ
光情報配線(光USB)



近赤外線カメラ

光技術を活用した
非通信収益事業の創出

青紫レーザダイオード
ファイバレーザ 高機能ガラス
近赤外光による組成イメージングシステム



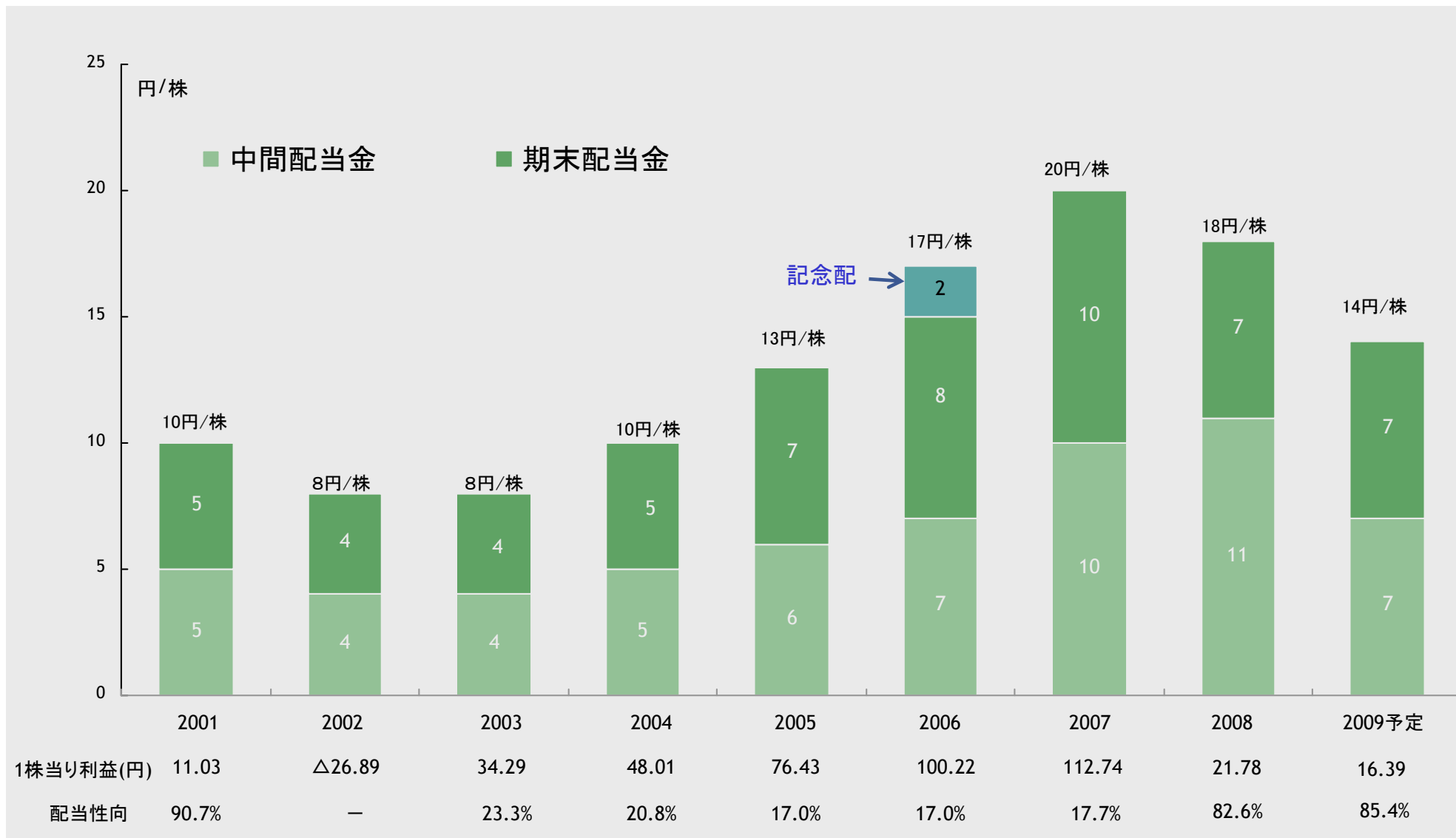
GaN基板



株主還元について～配当金・配当性向～

FY2009 1st Half Result

・2009年度は、年初公表通りの14円/株の配当を予定。





住友電工グループのCSR取り組み

FY2009 1st Half Result

住友電工グループ社会貢献基本理念

「住友事業精神」、「住友電工グループ経営理念」
に則ったキーワード



1. 人材育成、研究・学術振興、環境保全に資する取り組みを
グローバルに推進します

2. 国内外の事業拠点において地域に密着した
社会貢献活動を推進します

3. 社員の社会貢献活動に対して継続的な支援を行います

Ingenious Dynamics

社会貢献活動の事例

1. 住友電工グループ社会貢献基金の設立(2009年4月)

国内外における人材育成支援と学術・研究助成を目的とした基金を設立しました。基金の規模は、初年度1億円ですが、今後順次拡大してまいります。先行して実施している大学講座への寄付や、海外奨学金などの国内外の取り組みを本基金にて継承し、グローバルな社会貢献に注力いたします。

<基金の事業内容>

- ① 高度な研究支援のための大学講座への寄付
- ② 海外の大学に在学する現地学生への奨学金支給
- ③ 日本への外国人留学生に対する奨学金支給
- ④ 国内外の初等・中等・高等教育への助成
- ⑤ 学術・研究助成
- ⑥ スポーツ・文化・芸術支援を通じた青少年の育成

2. 障がい者雇用特例子会社の設立

2008年度に特例子会社「すみでんフレンド株式会社」を設立し、障がい者の方の雇用を促進。(12名を採用)



すみでんフレンド(株)

3. 社員の自発的な社会貢献活動に対する支援策

ボランティア休暇制度、マッチング・ギフト制度※を2007年度に導入

4. 地域社会への貢献

- ・地域の環境保全への貢献(地域清掃活動、緑化推進等)
- ・グラウンド、体育館等の会社施設の開放、工場見学の受入等
- ・近隣の学校での出前授業の実施など

5. 災害復興支援

2008年 中国・四川大地震被害に対する義援金(グループで総額約80百万円)

創業110年(2007年)を機に「住友電工グループ社会貢献基本理念」を制定

“Glorious Excellent Company”の実現にむけて社会貢献活動を推進

※社員が外部の基金等に寄付を実施した場合に、会社もそれに合わせて同額を拠出する制度



添付資料



新中期経営計画 “12Vision” ～Glorious Excellent Companyへの飛躍

FY2009 1st Half Result

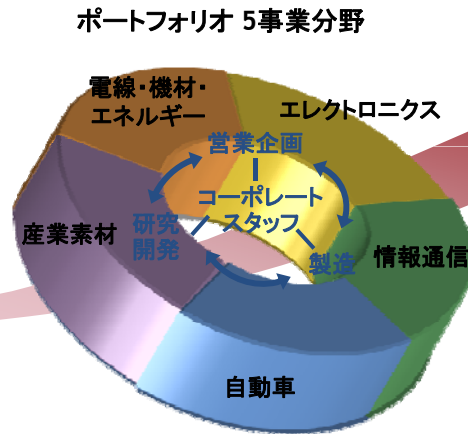
Glorious Excellent Company

“07Vision”
(第一次5カ年計画)

2007年度目標

売上高:	2兆円
営業利益:	1,200億円
ROA:	8.0%

「成長に向けたギア・チェンジ」



成長

“12Vision”
(第二次5カ年計画)

2012年度目標

売上高:	3兆円
営業利益:	2,100億円
ROE:	10.0%

「戦略性の強化」

- 収益性を意識した成長型ポートフォリオの構築
- 資本・財務戦略の徹底による企業体質の強化
- グローバル・グループ経営の最適化

成長戦略

Global Presenceの向上

- 海外拠点(製造、R&D、販売、物流)拡充
- 他社との協業 戦略的展開

Top Technologyの強化

- Q・C・Dで世界の競争を凌駕 (品質)(コスト)(デリバリー)(開発)
- 知財(IP)活用

Global Best 3 作戦

- 製品群の選択と集中
- 売上(または技術力、収益力など)世界ベスト3へ
- ベスト3に入らない製品については、撤退も視野

人材育成(SEIユニバーシティ)

・住友事業精神 ・住友電工グループ経営理念



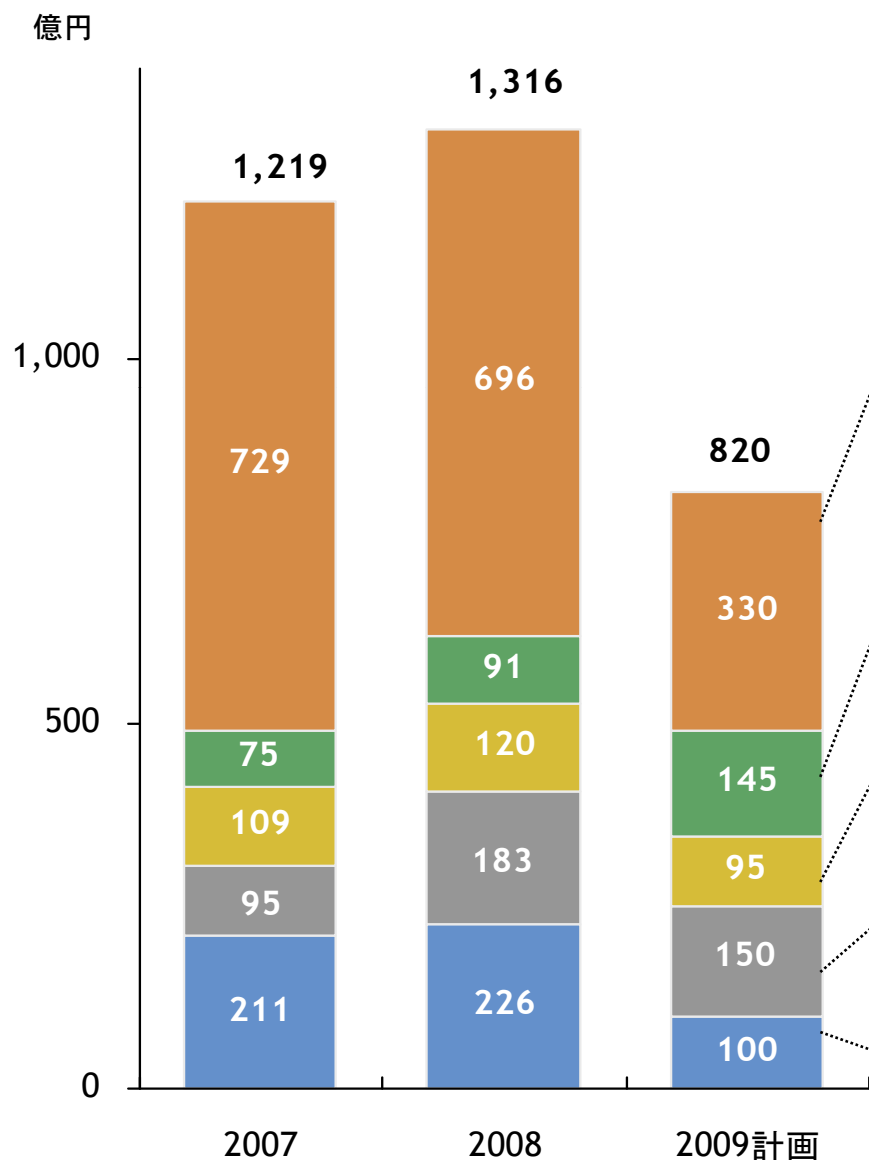
成長分野への重点投入 —設備投資—

FY2009 1st Half Result

設備投資計画

ターゲット分野

重点対策



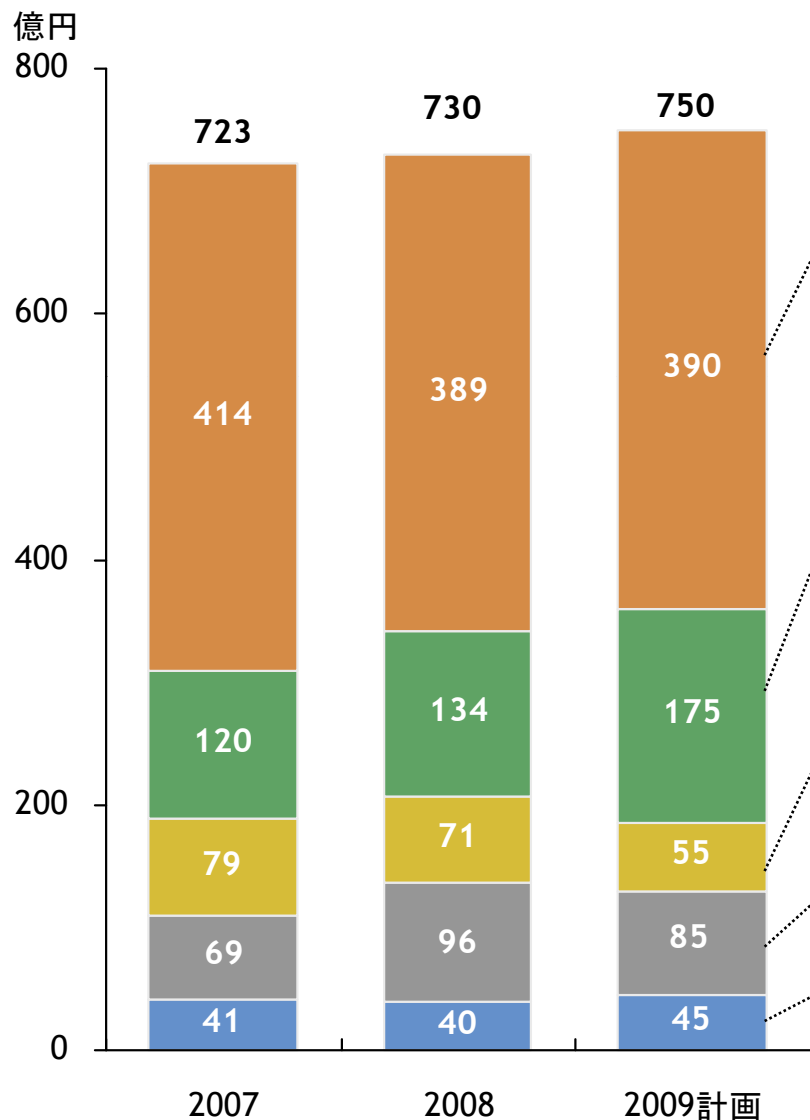
自動車	ハーネス 新規受注車種対応、合理化投資 コネクタ海外生産増強 東海ゴム 受注対応・合理化など
情報通信	中国における光通信関連需要増加対応 合理化投資
エレクトロニクス	生産最適化に向けた拠点整備 FPC能力増強 合理化投資
電線・機材・エネルギー	セルメット増産 日新電機のアジア展開
産業素材	受注対応、合理化、安全・品質など 必要最低限の投資に限定



成長分野への重点投入 — 研究開発 —

FY2009 1st Half Result

研究開発費



ターゲット分野	市場動向	重点対策他
自動車	環境 HEV/EV 軽量化 安全 センサ、カメラ エレクトロニクス化	高電圧ハーネス 細径化(Cu-SUS)ハーネス HEV/EV用リアクトル Electric Control Unit Power Distributor
情報通信	幹線系容量増大 FTTH・無線アクセス拡大、 通信と放送の融合、 NGN対応、グリーンIT	高速光リンク/モジュール 光スイッチ、導波路部品、監視システム 光アクセス機器、無線アクセス機器、 IP端末機器、映像配信機器、 省電力化技術 ユーティリティデバイス子会社化の影響で増加
エレクトロニクス	機器の小型・高密度化 パワーデバイス需要拡大 軽量化 半導体装置高性能化	高機能FPC※ 高密度実装部品・材料、Li電池 GaN、SiC、AlN マグネシウム合金 ダイヤモンド電子源
電線・機材・エネルギー	省エネ・環境保護	高温超電導線材・ケーブル・コイル
産業素材	高精度機械加工 レアメテリアル希少化	高性能超硬工具、ダイヤモンド製品 タンゲステンリサイクル研究

※ : Flexible Print Circuit



事業セグメント別売上高と営業利益

億円	2008/上 実績①		2009/上				前年同期比 ③-①		年初公表比 ③-②	
	売上高	営業利益	年初公表② 売上高	営業利益	実績③ 売上高	営業利益	売上高	営業利益	売上高	営業利益
自動車	5,769	244	3,300	△170	3,494	△31	△2,275	△275	+194	+139
情報通信	1,340	2	1,300	0	1,290	8	△50	+6	△10	+8
エレクトロニクス	1,057	52	700	△35	727	△2	△330	△54	+27	+33
電線・機材・ エネルギー	2,998	65	1,900	△30	1,836	△11	△1,162	△76	△64	+19
産業素材他	1,742	132	1,000	△65	1,039	△34	△703	△166	+39	+31
消 去	△428	△3	△300	0	△263	0	+165	+3	+37	0
合 計	12,478	492	7,900	△300	8,123	△70	△4,355	△562	+223	+230



2009年度年間業績予想

FY2009 1st Half Result

事業セグメント別売上高と営業利益

億円	2008年度		2009年度				年間増減			
	年間実績①		上期実績		下期予想		②-①			
	売上高	営業利益	売上高	営業利益	売上高	営業利益	売上高	営業利益		
自動車	9,171	61	3,494	△31	4,256	201	7,750	170	△1,421	+109
情報通信	2,750	50	1,290	8	1,560	57	2,850	65	+100	+15
エレクトロニクス	1,829	11	727	△2	923	47	1,650	45	△179	+34
電線・機材・エネルギー	5,361	89	1,836	△11	2,214	56	4,050	45	△1,311	△44
産業素材他	2,821	24	1,039	△34	1,211	39	2,250	5	△571	△19
消 去	△712	0	△263	0	△287	0	△550	0	+162	0
合 計	21,220	235	8,123	△70	9,877	400	18,000	330	△3,220	+95



この資料に記載されております売上高及び利益等の計画のうち、過去または現在の事実に関するもの以外は、当社グループの各事業に関する業界の動向についての見通しを含む経済状況、ならびに為替レートの変動その他の業績に影響を与える要因について、現時点で入手可能な情報をもとにした当社グループの仮定及び判断に基づく見通しを前提としております。

これら将来予想に関する記述は、既知または未知のリスク及び不確実性が内在しており、例として以下のものが挙げられますが、これらに限られるものではありません。

- ・ 米国、欧州、日本その他のアジア諸国の経済情勢、特に個人消費及び企業による設備投資の動向
- ・ 米ドル、ユーロ、アジア諸国の各通貨の為替相場の変動
- ・ 急速な技術革新と当社グループの対応能力
- ・ 財務的、経営的、環境的な諸前提の変動
- ・ 諸外国による現在及び将来の貿易規制等
- ・ 当社グループが所有する有価証券等の時価の変動

従いまして、実際の売上高及び利益等と、この資料に記載されております計画とは大きく異なる場合があることをご承知おき下さい。なお、当社グループは、この資料の本リリース後においても、将来予想に関する記述を更新して公表する義務を負うものではありません。